

日本アイソトープ協会の学術活動

平成27年度

発行 公益社団法人 日本アイソトープ協会

目 次

1. 会員	1
1.1 会員数の推移（会員種別、年度別）	1
1.2 所属部会別会員数（団体、賛助、特別、学生会員含む）	1
1.3 年齢階層別会員数（個人正会員のみ）	1
2. 部会・委員会	2
2.1 理工学部会	2
2.1.1 概要	2
2.1.2 第25期理工学部会	2
2.2 ライフサイエンス部会	4
2.2.1 概要	4
2.2.2 第25期ライフサイエンス部会	4
2.3 医学・薬学部会	6
2.3.1 概要	6
2.3.2 第25期医学・薬学部会	6
2.4 放射線安全取扱部会	9
2.4.1 概要	9
2.4.2 第28期放射線安全取扱部会	9
2.5 その他の委員会	12
2.6 講演会・見学会等	14
2.6.1 理工学部会、ライフサイエンス部会、医学・薬学部会	14
2.6.2 放射線安全取扱部会	16
2.6.3 NMCC共同利用委員会	18
3. 第52回アイソトープ・放射線研究発表会	18
4. CJK Meeting（中国・日本・韓国の3国ミーティング）	18
5. 講習会	19
5.1 原子力規制委員会・厚生労働省登録講習	19
5.1.1 第1種放射線取扱主任者講習	19
5.1.2 第3種放射線取扱主任者講習	19
5.1.3 放射線取扱主任者定期講習	20
5.1.4 第1種作業環境測定士（放射性物質）講習	21
5.2 その他講習会	21
5.2.1 アイソトープ基礎技術入門講習会	21
5.2.2 ラジオアイソトープ安全取扱講習会	21
5.2.3 密封線源安全取扱講習会	21
5.2.4 作業環境測定（放射性物質）のための準備講習会	22

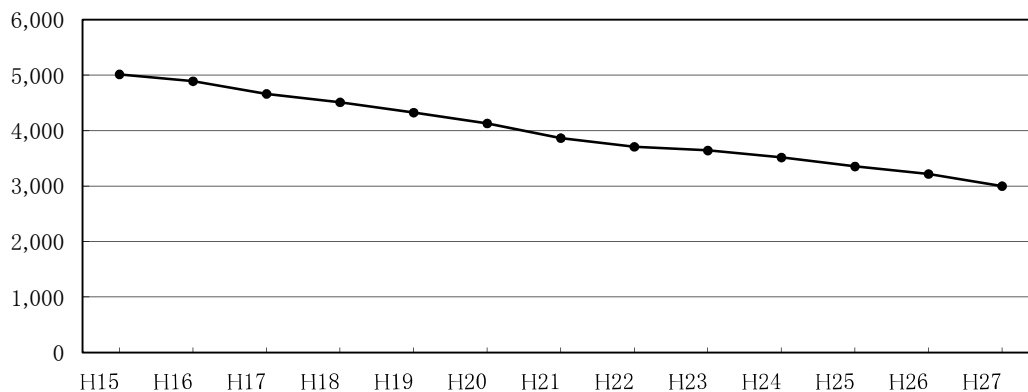
6.	図書等の発行	23
6.1	機関誌	23
6.1.1	Isotope News	23
6.1.2	RADIOISOTOPES	23
6.2	出版物等	24
7.	共同利用	24
7.1	仁科記念サイクロトロンセンター全国共同利用	24
8.	委託調査研究の受託実施	24
8.1	環境省委託事業	24
9.	普及・啓発	25
9.1	第19回(2015年)RADIOISOTOPES誌論文奨励賞	25
9.2	第52回アイソトープ・放射線研究発表会 若手優秀講演賞	25
9.3	第25回滝沢研究所施設公開	25
9.4	武見記念館	25
9.5	第56回「科学技術週間」施設公開	25
9.6	公開講座	25
9.7	初等・中等における放射線教育に係る普及啓発活動	26
9.8	福島復興支援	26
9.9	その他の啓発活動	26
資料	部会活動の経過及び成果公表資料	27
1.	理工学部会	27
2.	ライフサイエンス部会	34
3.	医学・薬学部会	37
4.	放射線安全取扱部会	46

1. 会員

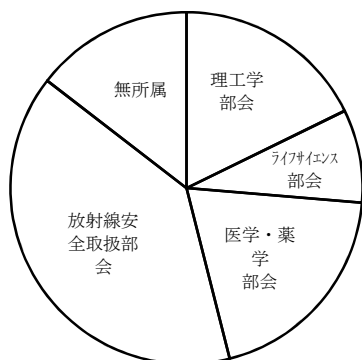
1.1 会員数の推移（会員種別、年度別）（各年度3月末日現在） *学生会員：平成24年度から新設

区分	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
個人正会員	4,441	4,307	4,100	3,914	3,733	3,526	3,270	3,103	3,017	2,864	2,693	2,538	2,330
団体正会員	249	242	234	239	240	240	229	225	226	220	217	217	210
特別会員	285	304	293	325	319	331	336	352	370	400	402	419	402
賛助会員	41	39	37	34	34	34	32	30	30	28	26	26	24
学生会員*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	17	19	35
計	5,016	4,892	4,664	4,512	4,326	4,131	3,867	3,710	3,643	3,517	3,355	3,219	3,001

会員数の推移(団体、賛助、特別、学生会員含む)



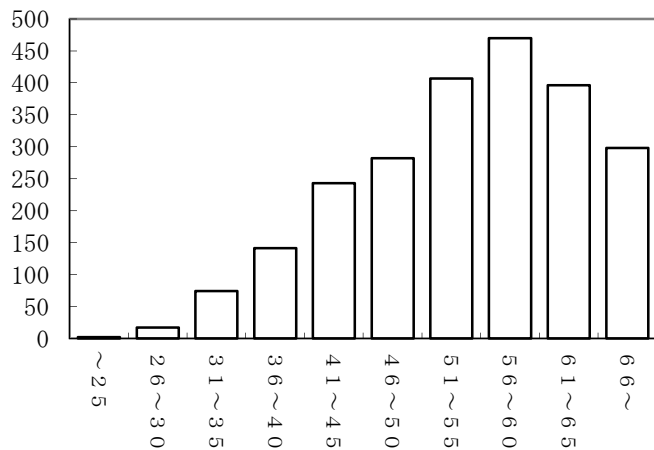
1.2 所属部会別会員数（団体、賛助、特別、学生会員含む）（平成28年3月末日現在）



理工学部会	857
ライフサイエンス部会	412
医学・薬学部会	952
放射線安全取扱部会	1,902
無所属	701
延 計	4,824

(注) 会員は複数の部会に所属できる

1.3 年齢階層別会員数（個人正会員のみ）（平成28年3月末日現在）



2. 部会・委員会*

2.1 理工学部会

2.1.1 概要

理工学部会ではアイソトープの理工学分野への利用に関する調査研究や部会員相互の研究連絡ならびに技術の向上に資するため、講演会、勉強会、見学会などを行うとともに、必要に応じ専門委員会を設けて、所要の調査・研究活動を実施しています。

2.1.2 第25期理工学部会（任期：平成26年4月～平成28年3月）の構成

常任委員会			
理工学分野におけるR I・放射線の利用促進を図るため、専門委員会を中心に部会活動を効果的に運営する。			
部会長	井口 哲夫	名古屋大学大学院工学研究科	
副部会長	今泉 洋	新潟大学自然科学系（工学部）	
常任委員	藤浪 眞紀	千葉大学大学院工学研究科	
	青山 道夫	福島大学環境放射能研究所	
	大石 晃嗣	(株)日本環境調査研究所	
	神野 郁夫	京都大学大学院工学研究科	
	鬼柳 善明	名古屋大学大学院工学研究科	
	後藤 彰	山形大学重粒子線がん治療施設設置準備室	
	小林 久夫	立教大学名誉教授	
	酒井 宏隆	(株)東芝 府中事業所	
	高橋 浩之	東京大学大学院工学系研究科	
	田川 精一	大阪大学産業科学研究所	
	桧野 良穂	国立研究開発法人産業技術総合研究所	
	松原 昌平	日立アロカメディカル(株)	
	山本 匡吾	TPR(株)	
	保田 浩志	広島大学原爆放射線医科学研究所	
横田 涉	国立研究開発法人日本原子力研究開発機構		
鷲尾 方一	早稲田大学理工学術院総合研究所		

放射線防護機器専門委員会			
放射線施設における放射線防護用設備・機器の適切な使用に資するため、「放射線防護用設備・機器ガイド」を編集し利用者の便に供する。			
委員長	松原 昌平	日立アロカメディカル(株)	
委員	草尾 豊	(株)千代田テクノル	
	野村 貴美	元東京大学	
	桧野 良穂	国立研究開発法人産業技術総合研究所	
	武藤 利雄	(地独)東京都立産業技術研究センター	
	保田 浩志	広島大学原爆放射線医科学研究所	

*) 所属は平成28年3月現在

中性子応用専門委員会

発展の著しい中性子関連のいくつかの先端技術の研究について、従来の中性子イメージングに加え、新たにいくつかのテーマを加え研究調査を行う。

委員長	鬼柳 善明	名古屋大学大学院工学研究科
委員	岩瀬 謙二	茨城大学工学部
	氏平 祐輔	東京大学名誉教授
	甲斐 哲也	国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 J-PARCセンター
	兼松 学	東京理科大学理工学部
	齊藤 泰司	京都大学原子炉実験所
	篠原 武尚	国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 J-PARCセンター
	竹中 信幸	神戸大学大学院工学研究科
	広田 克也	名古屋大学大学院理学研究科
	松嶋 卯月	岩手大学農学部
	松林 政仁	国立研究開発法人日本原子力研究開発機構
	持木 幸一	東京都市大学工学部

次世代スペクトル解析専門委員会

ゲルマニウム半導体検出器およびシンチレーション検出器で使用されているスペクトル解析の解析技術および使用されているソフトウェアの現状をレビューし、問題点や改善すべき点を抽出する。さらに、スペクトル解析技術について、日本国内および国外での新しい研究成果や技術開発をレビューする。得られた結果をもとに、次世代スペクトル解析ソフトウェアのあり方を議論し、ソフトウェア開発を行う。

委員長	青山 道夫	福島大学環境放射能研究所
委員	秋山 正和	(公財) 日本分析センター
	浅井 雅人	国立研究開発法人日本原子力研究開発機構
	阿部 敬朗	セイコー・イージーアンドジー(株)
	佐藤 泰	国立研究開発法人産業技術総合研究所
	高野 直人	(株)スカラベ・コーポレーション
	高宮 幸一	京都大学原子炉実験所
	濱島 靖典	金沢大学環日本海域環境研究センター
	武藤 儀一	キャンベラジャパン(株)
	山田 隆志	(株)アドフューテック
	石津 秀剛	(公社) 日本アイソトープ協会

放射線理工学若手リーディングサークル

放射線・同位体理工学に関連した研究・技術開発や社会貢献のあり方など、この分野の若手を呼び込むインセンティブとなるような提案について自由に発想し、可能であれば具体化に向けた検討を行う。

主査委員	井口 哲夫	名古屋大学大学院工学研究科
	木下 哲一	清水建設(株)技術研究所
	佐藤 泰	国立研究開発法人産業技術総合研究所
	島添 健次	東京大学大学院工学系研究科
	富田 英生	名古屋大学核燃料管理施設
	服部 可奈子	(株)東芝 府中事業所
	山下 真一	東京大学大学院工学系研究科

2.2 ライフサイエンス部会

2.2.1 概要

ライフサイエンス部会では、アイソトープのライフサイエンス分野への利用に伴う諸問題の調査研究、審議検討、連絡調整などを各専門委員会を中心に実施しています。

2.2.2 第25期ライフサイエンス部会（任期：平成26年4月～平成28年3月）の構成

常任委員会		
ライフサイエンス分野におけるR I・放射線の利用推進を図るため、専門委員会を中心に部会活動を効果的に運営する。		
部会長	都筑 幹夫	東京薬科大学生命科学部
副部会長	小島 周二	東京理科大学薬学部
	林 徹	聖徳大学人間栄養学部
常任委員	東 順一	大阪大学大学院工学研究科
	稲波 修	北海道大学大学院獣医学研究科
	久保田 善久	国立研究開発法人放射線医学総合研究所
	小林 奈通子	東京大学大学院農学生命科学研究科
	島田 義也	国立研究開発法人放射線医学総合研究所
	白岩 善博	筑波大学生命環境系
	竹島 一仁	名古屋大学アイソトープ総合センター
	夏堀 雅宏	北里大学獣医学部
	濱 健夫	筑波大学生命環境系
	山川 武夫	九州大学大学院農学研究院
	米山 忠克	東京大学名誉教授

企画専門委員会		
ライフサイエンス部会の活動全般にわたる企画・立案、調整・運営について検討し、常任委員会に意見具申する。		
委員長	白岩 善博	筑波大学生命環境系
委員	石岡 典子	国立研究開発法人日本原子力研究開発機構
	柿沼 志津子	国立研究開発法人放射線医学総合研究所
	朽津 和幸	東京理科大学理工学部
	小島 周二	東京理科大学薬学部
	佐々木 徹	北里大学医療衛生学部
	高橋 昭久	群馬大学重粒子線医学推進機構重粒子線医学研究センター
	竹島 一仁	名古屋大学アイソトープ総合センター
	田中 淳	国立研究開発法人日本原子力研究開発機構
	田野井慶太郎	東京大学大学院農学生命科学研究科
	塚田 祥文	福島大学環境放射能研究所
	丹生谷 博	東京農工大学遺伝子実験施設
	古川 純	筑波大学アイソトープ環境動態研究センター／生命環境系
	星野 洪郎	群馬大学名誉教授
	柳澤 啓	国立研究開発法人放射線医学総合研究所

安定同位元素専門委員会

安定同位元素に関し、その研究・利用の全般的な推進に資する活動を行う。

委員長	濱 健夫	筑波大学生命環境系
委員	足立 恭子	新日鉄住金化学(株)総合研究所
	折笠 敬	大陽日酸(株)メディカル事業本部
	風早 康平	国立研究開発法人産業技術総合研究所
	梶原 康宏	横浜薬科大学薬学部
	高取 和彦	明治薬科大学薬学部
	田中 福代	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構中央農業総合研究センター
	米山 忠克	東京大学名誉教授

薬学・薬理学研究専門委員会

薬学・薬理学研究分野におけるアイソトープ利用の促進を図るための諸活動を行う。

委員長	小島 周二	東京理科大学薬学部
委員	遠藤 朋宏	星薬科大学薬学部
	加藤 真介	横浜薬科大学
	佐々木 徹	北里大学医療衛生学部
	平田 幸也	日本たばこ産業(株)医薬総合研究所
	森田 裕子	慶應義塾大学薬学部
	吉田 浩子	東北大学大学院薬学研究科

下限数量以下の非密封R Iの安全取扱に関する専門委員会

下限数量以下の非密封放射性物質の利用促進に資するため、その安全かつ具体的使用方法に関する検討を行う。

委員長	都筑 幹夫	東京薬科大学生命科学部
委員	小島 周二	東京理科大学薬学部
	佐藤 浩之	東邦大学理学部
	田野井慶太郎	東京大学大学院農学生命科学研究科
	反保 浩一	第一三共(株)品川研究開発センター
	古川 純	筑波大学アイソトープ環境動態研究センター／生命環境系

2.3 医学・薬学部会

2.3.1 概要

医学・薬学部会では、アイソトープの医学、薬学分野への利用に伴う諸問題の調査研究、審議検討、連絡調整などを専門委員会を中心に実施しています。

2.3.2 第25期医学・薬学部会（任期：平成26年4月～平成28年3月）の構成

常任委員会		
医学・薬学分野におけるR I・放射線の利用促進を図るため、専門委員会を中心に部会活動を効果的に運営する。		
部会長	本田 憲業	埼玉医科大学総合医療センター
副部会長	小泉 潔	東京医科大学八王子医療センター
常任委員	佐治 英郎	京都大学大学院薬学研究科
	荒野 泰	千葉大学大学院薬学研究院
	伊藤 健吾	国立長寿医療研究センター
	遠藤 啓吾	京都医療科学大学
	大野 和子	京都医療科学大学医療科学部
	菅野 巖	国立研究開発法人放射線医学総合研究所
	絹谷 清剛	金沢大学医薬保健研究域医学系
	桑原 康雄	福岡大学病院
	小須田 茂	防衛医科大学校名誉教授
	茂松 直之	慶応義塾大学医学部
	玉木 長良	北海道大学大学院医学研究科
	西村 哲夫	静岡県立静岡がんセンター
	畑澤 順	大阪大学大学院医学研究科
	福喜多 博義	国際医療福祉大学保健医療学部
細野 眞	近畿大学高度先端総合医療センター	
間賀田 泰寛	浜松医科大学光先端医学教育研究センター	
松田 博史	国立精神・神経医療研究センター	
萬 篤憲	国立病院機構東京医療センター	

企画専門委員会		
部会活動の見直しと活性化を図るため企画、立案、調整を行う。		
委員長	小泉 潔	東京医科大学八王子医療センター
委員	荒野 泰	千葉大学大学院薬学研究院
	織内 昇	福島県立医科大学ふくしま国際医療科学センター
	小泉 満	がん研有明病院
	中嶋 憲一	金沢大学医薬保健研究域医学系
	西村 哲夫	静岡県立静岡がんセンター
	福喜多 博義	国際医療福祉大学保健医療学部
	藤井 博史	国立がん研究センター

核医学イメージング・検査技術専門委員会

- ①核医学イメージング技術水準の向上に資するため、イメージングの規格化に関する検討を行う。
②核医学検査技術の向上と核医学機器の安全管理に関する調査・検討を行う。

委員長	本田 憲業	埼玉医科大学総合医療センター
副委員長	福喜多 博義	国際医療福祉大学保健医療学部
委員	井上 優介	北里大学医学部
	大西 英雄	県立広島大学大学院総合学術研究科
	小野口 昌久	金沢大学医薬保健研究域
	金谷 信一	東京女子医科大学病院
	菊池 敬	北里大学病院
	木田 哲生	滋賀医科大学医学部附属病院
	丸野 廣大	虎の門病院

放射性医薬品専門委員会

放射性医薬品の利用促進と施設内取扱いに関する検討を行う。

委員長	佐治 英郎	京都大学大学院薬学研究科
委員	荒野 泰	千葉大学大学院薬学研究院
	井上 修	大阪大学名誉教授
	小野口 昌久	金沢大学医薬保健研究域保健学系
	金谷 信一	東京女子医科大学病院
	川井 恵一	金沢大学医薬保健研究域保健学系
	窪田 和雄	国立国際医療研究センター病院
	藤林 靖久	国立研究開発法人放射線医学総合研究所
	間賀田 泰寛	浜松医科大学光先端医学教育研究センター
	安原 真人	東京医科歯科大学医学部附属病院

放射性医薬品安全性専門委員会

放射性医薬品の安全性確保に資するため、放射性医薬品副作用事例等の調査・検討を行う。

委員長	松田 博史	国立精神・神経医療研究センター
委員	荒野 泰	千葉大学大学院薬学研究院
	岡沢 秀彦	福井大学高エネルギー医学研究センター
	水村 直	東邦大学医療センター大森病院
	横山 邦彦	公立松任石川中央病院
	吉村 真奈	東京医科大学

ポジトロン核医学利用専門委員会

PET検査の臨床利用に関する検討を行う。

委員長	伊藤 健吾	国立長寿医療研究センター
副委員長	佐治 英郎	京都大学大学院薬学研究科
委員	織内 昇	福島県立医科大学ふくしま国際医療科学センター
	佐々木 雅之	九州大学大学院医学研究院
	千田 道雄	先端医療センター
	玉木 長良	北海道大学大学院医学研究科
	外山 宏	藤田保健衛生大学医学部
	畑澤 順	大阪大学大学院医学系研究科
	藤林 靖久	国立研究開発法人放射線医学総合研究所
	細野 眞	近畿大学高度先端総合医療センター
	間賀田 泰寛	浜松医科大学光先端医学教育研究センター

医療放射線管理専門委員会 核医学検査等における放射線管理に関する検討を行う。		
委員長	大野 和子	京都医療科学大学医療科学部
副委員長	菊地 透	自治医科大学R Iセンター
委員	唐澤 克之	がん・感染症センター都立駒込病院
	中村 豊	国立病院機構相模原病院臨床研究センター
	松田 博史	国立精神・神経医療研究センター
	山口 一郎	国立保健医療科学院

放射線治療専門委員会 密封線源等による放射線治療に関する検討を行う。		
委員長	西村 哲夫	静岡県立静岡がんセンター
委員	伊丹 純	国立がん研究センター中央病院
	茂松 直之	慶応義塾大学医学部
	土器屋 卓志	埼玉医科大学客員教授
	中野 隆史	群馬大学医学部
	吉村 亮一	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
	萬 篤憲	国立病院機構東京医療センター

放射線治療専門委員会 前立腺癌永久刺入治療推進ワーキンググループ 前立腺癌永久挿入治療法における安全取扱いと普及のための諸活動を行う。		
主査 委員	萬 篤憲	国立病院機構東京医療センター
	青木 学	東京慈恵会医科大学医学部
	伊丹 純	国立がん研究センター中央病院
	穎川 晋	東京慈恵会医科大学医学部
	斉藤 史郎	国立病院機構東京医療センター
	佐藤 威文	北里大学医学部
	土器屋 卓志	埼玉医科大学客員教授
	西村 哲夫	静岡県立静岡がんセンター
	橋本 光康	国際医療福祉大学
	山中 英壽	医療法人社団美心会黒沢病院予防医学研究所
	吉村 亮一	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科

アイソトープ内用療法専門委員会 アイソトープの内用療法を効果的に推進するため、医療安全の確保を図る適正使用のガイドライン等の作成に資する検討を行う。		
委員長 委員	遠藤 啓吾	京都医療科学大学
	江口 研二	帝京大学医学部難治疾患支援学講座
	小椋 美知則	東海中央病院
	絹谷 清剛	金沢大学医薬保健研究域医学系
	斉藤 史郎	国立病院機構東京医療センター
	佐治 英郎	京都大学大学院薬学研究科
	飛内 賢正	国立がん研究センター中央病院
	成田 浩人	東京慈恵会医科大学附属病院
	西山 佳宏	香川大学医学部
	細野 眞	近畿大学高度先端総合医療センター
	山口 一郎	国立保健医療科学院
	横溝 晃	九州大学大学院医学研究院泌尿器科学分野
	渡邊 浩	横浜労災病院
	池渕 秀治	(公社)日本アイソトープ協会
	中村 吉秀	(公社)日本アイソトープ協会

2.4 放射線安全取扱部会

2.4.1 概要

放射線安全取扱部会では、アイソトープ・放射線に関する公共の安全・安心を確保するため、アイソトープ・放射線の安全取扱、管理について技術の向上と知識の普及・啓発を図ること、また、アイソトープ・放射線に関する国民の理解と放射線を取り扱う専門家への信頼を深めるため、放射線取扱主任者をはじめ放射線障害の防止に関する専門知識を有する者の育成と地位向上に努めるための諸活動を実施しています。

2.4.2 第28期放射線安全取扱部会（任期：平成26年4月～平成28年3月）の構成

本部運営委員会			
部会の目的を達成するため、その運営を円滑に推進するとともに支部間の連絡調整を行う。			
部会長	宮越 順二	京都大学生存圏研究所	
副部会長	中島 覚	広島大学自然科学研究支援開発センター	
	上菘 義朋	国立研究開発法人理化学研究所仁科加速器研究センター	
本部運営委員	稲波 修	北海道大学大学院獣医学研究科	
	渡部 浩司	東北大学サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター	
	井上 浩義	慶應義塾大学医学部	
	柴 和弘	金沢大学学際科学実験センター	
	飯田 敏行	電子科学研究所	
	小野 俊朗	岡山大学自然生命科学研究支援開発センター	
	杉原 真司	九州大学アイソトープ統合安全管理センター	
	榊本 和義	高エネルギー加速器研究機構放射線科学センター	
	唐沢 克之	がん・感染症センター都立駒込病院	

【支部組織】

各支部は、放射線安全取扱部会細則の目的に則り、統括する地域の部会員を対象に支部活動を行う。

北海道支部委員会			
支部長	稲波 修	北海道大学大学院獣医学研究科	
委員	遠藤 大二	酪農学園大学獣医学部	
	大内 健司	北海道電力(株)泊発電所	
	久下 裕司	北海道大学アイソトープ総合センター	
	安原 優子	北海道大学大学院農学研究院	

東北支部委員会			
支部長	渡部 浩司	東北大学サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター	
委員	阿部 養悦	東北大学病院診療技術部	
	河津 賢澄	福島大学理工学部	
	坂根 正一	日立アロカメディカル(株)	
	福島 美智子	石巻専修大学理工学部	
	森山 竜也	日本原燃(株)	

関東支部委員会

支 部 長	井上 浩義	慶應義塾大学医学部
委 員	飯塚 裕幸	埼玉医科大学中央研究施設
	五十嵐 敏美	東京工業大学バイオ研究基盤支援総合センター
	泉 雅子	国立研究開発法人理化学研究所仁科加速器研究センター
	大登 邦充	(株)千代田テクノ
	小幡 美貴	新潟大学医学部
	片岡 賢英	慶應義塾大学医学部
	佐々木博之	(株)日本環境調査研究所
	佐藤 齊	茨城県立医療大学保健医療学部
	高橋 克彦	獨協医科大学RIセンター
	谷川 勝至	東京大学大学院理学系研究科
	梁田 哲夫	日立アロカメディカル(株)

中部支部委員会

支 部 長	柴 和弘	金沢大学学際科学実験センター
委 員	黒澤 俊人	三重大学生命科学研究支援センター
	小島 康明	名古屋大学アイソトープ総合センター
	小須田 誓	愛知医科大学医学部附属総合医学研究機構
	小山 修司	名古屋大学医学部保健学科
	三嶋 淳二郎	日立アロカメディカル(株)
	矢永 誠人	藤田保健衛生大学
	横山 須美	藤田保健衛生大学医療科学部

近畿支部委員会

支 部 長	飯田 敏行	電子科学研究所
委 員	大熊 浩志	日本メジフィジックス(株)
	小山 由起子	滋賀医科大学実験実習支援センター
	佐々木 将博	(公財)先端医療振興財団先端医療センター
	鈴木 健二	(株)日本環境調査研究所
	谷 康輔	(株)日本遮蔽技研
	鳥取 和孝	(株)千代田テクノ
	芳原 新也	近畿大学原子力研究所
	松本 敦	(株)コーガアイソトープ
	矢鋪 祐司	日本たばこ産業(株)医薬総合研究所

中国・四国支部委員会

支 部 長	小野 俊朗	岡山大学自然生命科学研究支援開発センター
委 員	秋山 浩一	愛媛大学総合科学研究支援センター
	稲田 晋宣	広島大学自然科学研究支援開発センター
	北 実	鳥取大学生命機能研究支援センター
	坂口 修一	山口大学総合科学実験センター
	三好 弘一	徳島大学アイソトープ総合センター

九州支部委員会

支 部 長	杉原 真司	九州大学アイソトープ統合安全管理センター
委 員	奥野 浩二	長崎大学病院医療技術部
	岡島 敏浩	佐賀県立九州シンクロトロン光研究センター
	片平 真一	日立アロカメディカル(株)
	川村 秀久	(一財)九州環境管理協会
	後藤 稔男	宮崎大学フロンティア科学実験総合センター

【本部組織】

企画専門委員会		
部会の根幹を支え部会の事業および組織全般に関して、企画立案し、審議・推進する。		
委員長	中島 覚	広島大学自然科学研究支援開発センター
委員	飯本 武志	東京大学環境安全本部
	小崎 完	北海道大学大学院工学研究院
	加藤 真介	横浜薬科大学薬学部
	齋藤 美希	弘前大学アイソトープ総合実験室
	島崎 達也	熊本大学生命資源研究・支援センター
	高橋 郁子	名城大学薬学部
	角山 雄一	京都大学環境安全保健機構放射性同位元素総合センター
	中西 徹	就実大学大学院医療薬学研究科

広報専門委員会		
部会員相互のコミュニケーションと外部への広報活動を行い、部会員の資質向上と部会の地位向上に寄与する。		
委員長	上菘 義朋	国立研究開発法人理化学研究所仁科加速器研究センター
委員	池本 祐志	日本農薬(株)
	川辺 睦	元岡山大学
	鈴木 朗史	長瀬ランダウア(株)
	廣田 昌大	信州大学ヒト環境科学研究支援センター
	藤淵 俊王	九州大学大学院医学研究院
	宮本 昌明	神戸大学研究基盤センター
	吉田 浩子	東北大学大学院薬学研究科

法令検討専門委員会		
放射線取扱主任者の立場から、法令に係る検討を行い、意見具申案を作成する。		
委員長	榊本 和義	高エネルギー加速器研究機構放射線科学センター
委員	江田 正明	ゼリア新薬工業(株)中央研究所
	西沢 博志	三菱電機(株)先端技術総合研究所
	原 正幸	東京医科歯科大学医歯学研究支援センター
	矢野 和秀	(株)千代田テクノル
	山田 克典	国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 原子力科学研究所

2.5 その他の委員会

Isotope News編集委員会 Isotope Newsを編集、刊行する。		
委員長	小島 周二	東京理科大学薬学部
委員	上叢 義朋	国立研究開発法人理化学研究所仁科加速器研究センター
	對間 博之	茨城県立医療大学保健医療学部
	長谷川秀一	東京大学大学院工学系研究科
	古川 純	筑波大学アイソトープ環境動態研究センター／生命環境系
	丸野 廣大	虎ノ門病院
	王 冰	国立研究開発法人放射線医学総合研究所 放射線防護研究センター

RADIOISOTOPES編集委員会 (任期：平成27年4月～平成29年3月) RADIOISOTOPESを編集、刊行する。		
委員長	下 道國	藤田保健衛生大学客員教授
副委員長	氏平 祐輔	東京大学名誉教授
委員	今泉 洋	新潟大学自然科学系（工学部）
	久保 謙哉	国際基督教大学教養学部
	小須田 茂*	防衛医科大学校
	酒井 一夫**	東京医療保健大学
	柴田 徳思	(公社)日本アイソトープ協会
	杉浦 紳之***	(公財)原子力安全研究協会
	高橋 浩之	東京大学大学院工学系研究科
	田野井慶太郎	東京大学大学院農学生命科学研究科
	藤井 博史	国立がん研究センター東病院
	藤浪 眞紀	千葉大学大学院工学研究科
	吉村 真奈**	東京医科大学

*平成27年12月まで **平成28年1月から ***平成28年3月まで

ICRP勧告翻訳検討委員会 (任期：平成26年4月～平成28年3月) 国際放射線防護委員会（ICRP）刊行物の日本語版の編集企画の検討を行う。下訳業者及び翻訳者の選定を行い、翻訳検討委員会による校閲とICRP国内メンバー等による監修を経て最終稿を決定し、ICRP刊行物「日本語版」を発行する。		
委員長	丹羽 太貫	ICRP主委員会、公益財団法人放射線影響研究所
副委員長	今村 恵子	前 聖マリアンナ医科大学放射線医学講座
委員	神田 玲子	国立研究開発法人放射線医学総合研究所 放射線防護情報統合センター
	佐々木 道也*	電力中央研究所 原子力技術研究所 放射線安全研究センター
	佐々木 康人	湘南鎌倉総合病院附属臨床研究センター
	鈴木 元	国際医療福祉大学クリニック
	吉澤 道夫	国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 原子力科学研究所

*平成26年6月から

NMCC共同利用委員会 (任期：平成26年10月～平成28年9月)

NMCCの全国共同利用を円滑に推進する。

委員長	小川 彰	岩手医科大学
委員	石井 慶造	東北大学大学院工学研究科
	伊藤 伸彦	北里大学名誉教授
	岩田 錬	東北大学サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター
	江原 茂	岩手医科大学医学部
	小笠原 邦昭	岩手医科大学医学部
	織原 彦之丞	東北大学名誉教授
	小豆嶋 正典	岩手医科大学歯学部
	高橋 和真	岩手県立大学看護学部
	寺山 靖夫	岩手医科大学医学部
	藤村 朗	岩手医科大学歯学部
	久保 敦司	(公社)日本アイソトープ協会

2.6 講演会・見学会等

2.6.1 理工学部会、ライフサイエンス部会、医学・薬学部会

月・日	会場、場所	演題、見学施設等	主催
6・20	浜離宮朝日ホール 小ホール	講習会 第19回 有痛性骨転移の疼痛治療における塩化ストロンチウム-89治療安全取扱講習会 1 放射線安全管理 (1)内用療法用放射性医薬品の安全管理 2 放射線安全管理 (2)法令、届出事項及び退出基準について 3 放射線安全管理 (3)放射線測定と放射性廃棄物の安全管理 4 臨床応用	医
7・4	日本アイソトープ協会	講習会 第28回 イットリウム-90標識抗CD20抗体を用いた放射免疫療法の安全取扱講習会 1 臨床応用 2 放射線安全管理－法令、届出事項及び退出基準について 3 読影・判定について 4 放射線安全管理－放射線測定及び放射性廃棄物の安全管理について 5 放射線安全管理－内用療法用放射性医薬品の安全管理 6 教育訓練－管理区域の入退室について 7 実習： ⁹⁰ Y-イブリツモマブ チウキセタンの標識調製法、標識率の確認、放射性廃棄物の処理方法等について	医
7・9	東京大学 弥生講堂	理工学部会オープンセミナー 1 放射線温故知新（講演） 「放射線計測アーカイブス」 河田 燕氏（元成蹊大学教授／ 元日本アイソトープ協会常務理事） 2 部会活動報告 (1)理工学部会の活動について (2)専門委員会報告 ・放射線防護機器専門委員会 ・中性子応用専門委員会 ・次世代スペクトル解析専門委員会	理
7・10 ～7・11	東京大学農学部 フードサイエンス棟中島董一郎 記念ホール	平成27年度 放射線基礎セミナー ～東京電力福島第一原子力発電所事故の数値を読み解くために～ 特別講義 「シーベルトは健康影響の目安か？」 教育講義 1 放射線の量と健康影響 2 環境試料の放射能測定と測定値からの誘導量(放出速度、放出総量等)について： 東京電力福島第一原子力発電所事故の場合 3 内部被ばくを理解する 4 東京電力福島第一原子力発電所事故に係る緊急作業員及び住民の内部被ばく線量評価	理 ラ

月・日	会場、場所	演題、見学施設等	主催
7・11	国際ファッションセンタービル	講習会 2015年度I-131 (1, 110MBq) による残存甲状腺破壊 (アブレーション) の外来治療における適正使用に関する講習会 1 法令、届出事項及び退出基準 2 RI内用療法用放射性医薬品の安全管理 －医療従事者の被曝防止並びに患者家族に対する指示事項について－ 3 放射線測定と放射性廃棄物の安全管理 4 臨床応用	医
12・5	家の光会館	講習会 第20回 有痛性骨転移の疼痛治療における塩化ストロンチウム-89治療安全取扱講習会 内容は第19回 (6・20開催) に同じ	医
12・9	国立研究開発法人国立がん研究センター東病院及び先端医療開発センター (柏キャンパス)	放射線・同位体 (R&I) サイエンス講演見学会 講演 「がん治療の進歩と画像診断」 藤井 博史氏 (国立がん研究センター先端医療開発センター機能診断開発分野長) 施設見学 国立がん研究センター先端医療開発センターRI施設 同 東病院 放射線部	理
12・19	日本アイソトープ協会	講習会 第29回 イットリウム-90標識抗CD20抗体を用いた放射免疫療法の安全取扱講習会 内容は第28回 (7・4開催) に同じ	医
2・27	国際ファッションセンタービル	講習会 第18回 高線量率ラルス医療安全取扱講習会 1 事故発生後に取った再発防止対策 2 ラルスの品質管理 3 事故発生予防に関するメーカーの取り組み 4 IGBTの安全な実施とピットフォール 5 行政の立場からの発言 6 学会の立場からの発言	医
2・27	国際ファッションセンタービル	講習会 第19回 ヨウ素125シード線源による前立腺癌永久挿入密封小線源治療の安全取扱講習会 1 シード療法総論 2 シード治療の看護 3 シード療法の安全管理 4 現状と展望	医
3・8	東京大学農学部2号館化学第3講義室	平成27年度 安定同位体利用技術研究会 1 『新食物連鎖解析法』－その提案とC/N同位体対比研究の動向 2 微量溶存窒素化合物の同位体比測定について： 最新の研究とその応用 3 同位体による食性研究法の課題と展望 4 植物代謝における ¹³ C/ ¹² C ¹⁵ N/ ¹⁴ N同位体分別の研究をどう展開したか、されたか？	ラ

2.6.2 放射線安全取扱部会

(1) 平成27年度放射線安全取扱部会年次大会（第56回放射線管理研修会）

月・日	会場、場所	演題等
11・26 ～27	金沢市文化ホール	部会総会 部会の活動報告・活動計画 特別講演Ⅰ（原子力規制委員会原子力規制庁） 放射性同位元素等の規制に係る最近の動向 特別講演Ⅱ 歴史と文化のまちづくり 特別講演Ⅲ 小動物PET/SPECT-CT装置を用いたin vivo動物研究の現状と将来性 シンポジウムⅠ 核医学による最新診断および治療法 シンポジウムⅡ メディア・リテラシーを考える シンポジウムⅢ 放射線施設改修工事および廃止における注意点 ポスター発表 40題

(2) 研修会、勉強会及び法定の教育訓練講習会等

○北海道支部

月・日	会場、場所	演題等
4・24	北海道大学百年記念会館大会議室	教育訓練講習会（新規教育・再教育）
6・8	北海道大学工学部正面玄関ホール、工学部教室（B31）	平成27度原子力オープンスクール（主催：日本原子力学会北海道支部。北海道大学工学部と共催）
2・5	北海道大学百年記念会館	北海道安全管理研修会・アイソトープ利用研究会（主催：北海道大学アイソトープ総合センター。共催：北海道支部。後援：日本放射線安全管理学会）

○東北支部

月・日	会場、場所	演題等
5・29	東京エレクトロンホール宮城	教育訓練講習会（新規教育・再教育）（東北放射線科学センターと共催）
2・19	東北大学サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター	放射線管理実務セミナー

○関東支部

月・日	会場、場所	演題等
4・21	家の光会館	教育訓練講習会－ラジオアイソトープの安全取扱Ⅰ（新規教育）
5・14	家の光会館	教育訓練講習会－ラジオアイソトープの安全取扱Ⅱ（新規教育）
5・21	国際ファッションセンタービル	教育訓練講習会－ラジオアイソトープの安全取扱Ⅲ（再教育）
5・29	国際ファッションセンタービル	教育訓練講習会－ラジオアイソトープの安全取扱Ⅳ（再教育）
6・12	千代田テクノ大洗事業所	施設見学会
10・28	家の光会館	教育訓練講習会－ラジオアイソトープの安全取扱Ⅴ（新規教育）
10・14	日本アイソトープ協会	教育訓練講習会－ラジオアイソトープの安全取扱Ⅵ（再教育）

○中部支部

月・日	会場、場所	演題等
5・8	名古屋商工会議 所	第27回教育訓練講習会（新規教育・再教育）（中部原子力懇談会と共催）

○近畿支部

月・日	会場、場所	演題等
5・22	天満研修セン	教育訓練講習会Ⅰ（新規教育・再教育）
10・9	京都テルサ	教育訓練講習会Ⅱ（新規教育・再教育）
2・25	近畿大学原子力 研究所 管理棟	見学会・交流会

○中国・四国支部

月・日	会場、場所	演題等
5・8	岡山大学創立五 十周年記念館	教育訓練講習会（新規教育・再教育）
9.18	岡山大学自然生 命科学研究支援 センター光・放 射線情報解析部 門鹿田施設	研修会・交流会

○九州支部

月・日	会場、場所	演題等
4・14	福岡リーセント ホテル	教育訓練講習会（新規教育・再教育）
12・11	長崎大学先導生 命科学研究支援 センターアイソ トープ実験施設	研修会・見学会

(3) 講師派遣

35 事業所等からの依頼を受けて法定教育訓練の講師を派遣した。

2.6.3 NMCC共同利用委員会

第21回 NMCC共同利用研究成果発表会

会 期 平成27年 5月15日～16日
会 場 岩手医科大学附属循環器医療センター
主 催 日本アイソトープ協会・岩手医科大学
特 別 講 演 「最近の動物医療の動向と期待されるPET研究」
夏堀 雅宏（北里大学獣医学部）
発 表 演 題 34件（PET：7件、PIXE：26件、薬剤・基礎：1件）
参 加 者 80名
報 文 集 NMCC共同利用研究成果報文集21（2014） CD-ROM版 平成27年12月発行

3. 第52回アイソトープ・放射線研究発表会

会 期 平成27年 7月8日～10日
会 場 東京大学 弥生講堂
主 催 日本アイソトープ協会
共 催・協 賛 63学協会
特 別 講 演 ・「原子カプラントにおける配管検査用CTの開発」
・「 α 線内用療法の現状と展望」
・「X線分析で物質の起源を探る
～土砂データベースから福島原発由来放射性大気粉塵まで～」
パ ネ ル 討 論 ・「ナノ粒子のライフサイエンスおよび医学分野への利用に向けて」
・「高速（MeV級）クラスターイオンに関わる研究開発の展望」
・「北から南から福島を踏まえた放射線教育の全国展開Ⅲ
－新たな中学校放射線授業への展望－」
研究発表件数 151件（口頭発表：126件、ポスター発表：25件）
要 旨 集 第52回アイソトープ・放射線研究発表会要旨集
参加登録者数 557名
(第52回アイソトープ・放射線研究発表会運営委員会)

4. CJK Meeting 2016（中国（CIRA）・日本（JRIA）・韓国（KARA）の3国ミーティング）

会 期 平成28年1月21日～22日
会 場 韓国ソウル Samjung Hotel
日本側参加者 7名
セ ッ シ ョ ン
Session 1: Main Session: RI Status, Policy, & Social Responsibility
Session 2: Special Report(1): Ongoing Issue(s)
Session 3: Special Report(2): Future issue(s)

5. 講習会

5.1 原子力規制委員会・厚生労働省登録講習

5.1.1 第1種放射線取扱主任者講習

回	会 期	受講者数	修了者数
第376回	平成27年 5月18日 ～ 5月22日	19名	19名
第377回	平成27年 6月15日 ～ 6月19日	28名	28名
第378回	平成27年 6月29日 ～ 7月 3日	7名	7名
第379回	平成27年 7月13日 ～ 7月17日	19名	19名
第380回	平成27年11月 9日 ～ 11月13日	31名	31名
第381回	平成27年11月30日 ～ 12月 4日	31名	31名
第382回	平成27年12月14日 ～ 12月18日	32名	32名
第383回	平成28年 1月25日 ～ 1月29日	32名	32名
第384回	平成28年 2月15日 ～ 2月19日	31名	31名
第385回	平成28年 2月29日 ～ 3月 4日	32名	32名
第386回	平成28年 3月14日 ～ 3月18日	31名	31名

備考：目的 「放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律」第35条第2項に定める講習

対象 第1種放射線取扱主任者試験合格者で18歳以上の者

講習内容 (1) 放射線の基本的な安全管理に関する課目
 (2) 放射性同位元素及び放射線発生装置並びに放射性汚染物の取扱いの実務に関する課目
 (3) 使用施設等及び廃棄物詰替施設等の安全管理の実務に関する課目
 (4) 放射線の量及び放射性同位元素による汚染の状況の測定の実務に関する課目
 (5) 修了試験

会 場 協会会議室及び実習室

5.1.2 第3種放射線取扱主任者講習

回	会 期	受講者数	修了者数
第19回	平成27年 8月 5日 ～ 8月 6日	6名	6名
第20回	平成27年10月 8日 ～ 10月 9日	14名	14名
第21回	平成28年 2月 3日 ～ 2月 4日	8名	8名

備考：目的 「放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律」第35条第4項に定める講習

対象 18歳以上の者

講習内容 (1) 法に関する課目
 (2) 放射線及び放射性同位元素の概論
 (3) 放射線の人体に与える影響に関する課目
 (4) 放射線の基本的な安全管理に関する課目
 (5) 放射線の量の測定及びその実務に関する課目
 (6) 修了試験

会 場 協会会議室及び実習室

5.1.3 放射線取扱主任者定期講習

回	開催地	開催日	受講者数	修了者数
使1501回	飯田橋レインボービル (東京都新宿区)	平成27年5月15日	52名	52名
販1501回			4名	4名
使1502回	飯田橋レインボービル (東京都新宿区)	平成27年8月26日	58名	58名
販1502回			2名	2名
使1503回	日本アイソトープ協会 (東京都文京区)	平成27年5月25日	21名	21名
販1503回			3名	3名
使1504回	大阪大学ラジオアイソトープ総合センター (大阪府吹田市)	平成27年9月18日	29名	29名
販1504回			0名	0名
使1505回	北海道立道民活動振興センター (北海道札幌市)	平成27年10月2日	24名	24名
販1505回			0名	0名
使1506回	国際ファッションセンタービル (東京都墨田区)	平成27年11月4日	34名	34名
販1506回			0名	0名
使1507回	日本アイソトープ協会 (東京都文京区)	平成27年11月16日	34名	34名
販1507回			0名	0名
使1508回	文部科学省研究交流センター (茨城県つくば市)	平成27年12月4日	16名	16名
販1508回			0名	0名
使1509回	国際ファッションセンタービル (東京都墨田区)	平成27年12月16日	26名	26名
販1509回			1名	1名
使1510回	ピュアリティまきび (岡山県岡山市)	平成27年12月18日	26名	26名
販1510回			0名	0名
使1511回	仙都会館 (宮城県仙台市)	平成28年1月15日	20名	20名
販1511回			0名	0名
使1512回	福岡リーセントホテル (福岡県福岡市)	平成28年1月22日	29名	29名
販1512回			0名	0名
使1513回	大阪大学中之島センター (大阪府大阪市)	平成28年2月12日	27名	27名
販1513回			0名	0名
使1514回	東桜会館 (愛知県名古屋市)	平成28年2月26日	30名	30名
販1514回			2名	2名
使1515回	日本アイソトープ協会 (東京都文京区)	平成28年3月11日	31名	31名
販1515回			3名	3名

備考：目的 「放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律」第36条の2に定める講習

対象 (1) 下記事業所等の選任された放射線取扱主任者
 ・許可届出使用者
 ・届出販売業者、届出貨貸業者（表示付認証機器のみを販売又は賃貸する者並びに放射性同位元素等の運搬及び運搬の委託を行わない者を除く）
 (2) 選任された放射線取扱主任者以外の者で本講習の受講を希望する者

講習内容 (1) 法に関する課目
 (2) 放射性同位元素等の事故の事例に関する課目
 (3) 放射性同位元素等の取扱いに関する課目
 (4) 使用施設等の安全管理に関する課目
 上記の内、講習種別によって必要な課目を受講

会場 東京、大阪及び全国の各都市

5.1.4 第1種作業環境測定士（放射性物質）講習

回	会 期	受講者数	修了者数
第110回	平成27年 4月 9日 ～ 4月10日	15名	15名
第111回	平成27年 7月30日 ～ 7月31日	27名	27名
第112回	平成27年10月29日 ～ 10月30日	35名	35名
第113回	平成28年 1月14日 ～ 1月15日	38名	38名

備考：目的 「作業環境測定士法」第5条に定める講習
 対象 第1種作業環境測定士試験合格者又は作業環境測定士法第14条第3項により試験の全科目免除者
 講習内容 (1) 放射性物質取扱作業室の作業環境について行う分析の実務
 会場 協会会議室及び実習室

5.2 その他講習会

5.2.1 アイソトープ基礎技術入門講習会

回	会 期	受講者数
第84回	平成27年 4月22日 ～ 4月24日	10名

備考：目的 非密封アイソトープの安全取扱いにおいて必要な基礎入門的な知識及び実習を通じて安全取扱いの基本の習得
 対象 特に新人教育向け
 講習内容 講義：アイソトープの基礎、人体への影響、測定技術、管理技術、放射線障害防止法
 実習：測定実習、取扱実習
 会場 協会会議室及び実習室

5.2.2 ラジオアイソトープ安全取扱講習会

回	会 期	受講者数
第44回	平成27年 6月 1日 ～ 6月 5日	40名

備考：目的 非密封ラジオアイソトープを安全に取扱うために必要な知識の習得
 対象 非密封ラジオアイソトープ取扱いについて基礎的な知識を有する研究者、技術者
 講習内容 物理学、化学、生物学、測定技術、管理技術、放射線障害防止法
 会場 協会会議室

5.2.3 密封線源安全取扱講習会

回	会 期	受講者数
第57回	平成27年 6月 9日 ～ 6月12日	25名

備考：目的 密封線源を安全に取扱うために必要な知識の習得
 対象 密封線源取扱いについて基礎的な知識を有する研究者、技術者
 講習内容 アイソトープの基礎、測定技術、管理技術、生物影響、放射線障害防止法
 会場 協会会議室

5.2.4 作業環境測定（放射性物質）のための準備講習会

回	会 期	受講者数
第 7回	平成27年 4月 8日	5名
第 8回	平成27年 7月29日	8名
第 9回	平成27年10月28日	7名
第10回	平成28年1月13日	8名

備考： 目 的 サンプルングされた試料の放射能濃度を求めるための考え方と計算方法の習得
対 象 第1種作業環境測定士（放射性物質）講習を受講する者
講習内容 放射性物質取扱作業室の作業環境について行う分析の実務
会 場 協会会議室

6. 図書等の発行

6.1 機関誌

6.1.1 Isotope News (広報誌) (No. 732~743) (Isotope News 編集委員会)

6.1.2 RADIOISOTOPES (学術誌) (Vol. 64 No. 4~Vol. 65 No. 3) (RADIOISOTOPES 編集委員会)

総説一覧

表 題
“安定同位体利用技術” イオントラップ型質量分析を導入した海洋微細藻類の脂質メタボローム解析 安定同位体を使用したヒトの栄養に関する研究
放射性核種の環境移行パラメータ 日本列島における地表 γ 線量率分布の地学的背景 環境放射能のグローバル輸送・分布と長期的変動

連載講座

表 題
“ミュオン科学” ミュオン化学の連載講座を始めるにあたってー (序説) ミュオンとはー 日本のミュオン実験施設 ; J-PARC MUSE ミュオン・スピン回転 (μ SR) 法
“放射線を面で捉える” (1) 空からの測定 (2) 水中の測定 (3) 地上の測定
“中性子散乱による原子・分子のダイナミクスの観測” IV ソフトマター・生体物質の非弾性・準弾性中性子散乱研究 IV-1-1 非弾性・準弾性中性子散乱による高分子固体のダイナミクス IV-1-2 中性子準弾性散乱による高分子溶液ダイナミクスの研究 IV-2 蛋白質の水和とダイナミクス V-1 スピンダイナミクス 緒言ー中性子磁気散乱研究の基礎ー V-2 低次元磁性体のスピンダイナミクス ー2次元正方格子反強磁性体Ba ₂ CoGe ₂ O ₇ におけるスピン・ネマティック相互作用の観測ー V-3 フラストレート磁性体のスピンダイナミクス ースピネル酸化物にひそむスピンの分子たちー V-4 準結晶のスピンダイナミクス V-5 偏極中性子で観るスピンダイナミクス
“福島周辺における空間線量率の測定と評価” IV 環境中における空間線量率測定の実際 V 福島周辺における空間線量率分布の特徴 VI 個人の外部被ばく線量評価の現状と課題
“放射線治療の最近の話題” 前立腺小線源治療の現状と今後の展望

特集

表 題
粒子線治療
ミニレビュー
表 題
植物細胞内の硫酸イオン輸送 植物の維管束を介した硫酸イオン輸送 -SULTR2;1の働きを中心に-

6.2 出版物等

- | | | | |
|---|-------------|--------|-----------|
| ① 第57回 第2種放射線取扱主任者試験問題と解答例 | B5判 | 40ページ | 550円+税 |
| ② 3版 放射線管理実務マニュアル | A4判 | 479ページ | 7,300円+税 |
| ③ Effects of Radiation on Human Body | DVD (映像30分) | | 30,000円+税 |
| ④ 英語版テキスト Basic Knowledge of Radiation and Radioisotope | B5判 | 120ページ | 1,600円+税 |

7. 共同利用

7.1 仁科記念サイクロトロンセンター全国共同利用

		研究課題 (件)	割当回数 (回)	利用実績 (回)	備考
前 期	PET	8	73	67	検査数 75名
	PIXE	24	129	111	
	薬剤合成	1	10	10	
	合 計	33	212	188	
後 期	PET	8	75	54	検査数 76名
	PIXE	27	127	123	
	薬剤合成	1	9	2	
	合 計	36	211	179	
年度合計		69	423	367	

8. 委託調査研究の受託実施

8.1 環境省委託事業

環境省委託事業「平成27年度原子力災害影響調査等事業（福島県外における住民の個人被ばく線量把握事業）」を受託し、個人モニター約3000人を対象に、全3回の個人被ばく線量測定を実施した。

9. 普及・啓発

9.1 第19回（2015年）RADIOISOTOPES誌論文奨励賞

受賞者 5名

9.2 第52回アイソトープ・放射線研究発表会 若手優秀講演賞

受賞者 8名

9.3 第25回滝沢研究所施設公開

日 時 9月 13日（日） 9:30～15:30

イベント 施設見学会（茅記念滝沢研究所・仁科記念サイクロトロンセンター・武見記念館）

講演会 岩手大学名誉教授 齋藤 徳美 先生

「火山噴火・地震など頻発する自然災害にどう向き合うか」

施設見学会、無料健康相談、無料骨密度測定、毛髪分析、霧箱実演など

来場者 約600名

9.4 武見記念館

展示内容 現代医学展示

身のまわりのアイソトープ・放射線展示

人工臓器ロボット

武見太郎先生日本医師会会長在職中備品

放射線利用及び科学技術の発展に関するパネル、CD等の展示物

開館時間 10:00～16:00

（土・日・祝祭日、創立記念日（5月1日）、年末年始（12月29日～1月3日）を除く）

来館者数 600名

9.5 第56回「科学技術週間」施設公開

日 時 4月13日（月）～ 4月17日（金）

茅記念滝沢研究所（医療RI廃棄物処理施設）

仁科記念サイクロトロンセンター（サイクロトロン、PET、PIXEなどの研究施設）

武見記念館（現代医学およびRI利用に関する展示）

9.6 公開講座

一般市民向けの公開講座

「市民のための公開講座・しゃべり場『食品照射を考える 消費者は、何が心配なのですか？』」

開催日 7月10日（金） 15:45～18:15

主催 食のコミュニケーション円卓会議

共催 日本食品照射研究協議会、（公社）日本アイソトープ協会

会場 東京大学弥生講堂（第52回アイソトープ・放射線研究発表会と同時開催）

9.7 初等・中等における放射線教育に係る普及啓発活動

初等・中等教育を担う教職員等を対象とした放射線教育のための研修会を13回、パネル展示等による啓発活動を1回行った。

放射線教育用線源 (^{133}Ba 370kBq) を中学校・高等学校等に15回貸出しを行った。

9.8 福島復興支援

(1) 福島県民健康管理調査「甲状腺検査」出張説明会への協力

福島県立医科大学が主催する県民健康管理調査「甲状腺検査」出張説明会に協力し、講師として医師を15会場に派遣した。

(2) 市民を対象とした放射線教育

福島県が主催する「食品と放射能に関するリスクコミュニケーション」に放射線専門家を1回派遣した。

9.9 その他の啓発活動

「(仮称)川崎研究開発センター」建設地(川崎市川崎区殿町)において開催された「キングスカイフロント 夏の科学イベント2015」に参加し、近隣の小学生を対象にパネル展示等を通じて、放射線の正しい知識の理解のための啓発活動を行った。

資 料 部会活動の経過及び成果公表資料

1. 理工学部会

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
RI装備機器調査専門委員会 〔昭和39年 4月～12月〕	○ 利用状況および問題点のアンケート調査 * 「放射性同位元素装備機器利用状況調査報告」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 14, No. 3(1965)
ラジオグラフィ専門委員会 〔昭和39年 4月～43年 3月〕	○ γ 線ラジオグラフィ利用状況アンケート調査 * 「わが国における γ 線ラジオグラフィの利用状況」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 14, No. 1(1965) ○ 感光材料の問題点検討 * 「ラジオグラフィにおける圧力効果による“フィルムむら”について」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 14, No. 1(1965) ○ ガンマ線ラジオグラフィ検査基準の確立および ^{192}Ir 線源 国産化の検討 日本原子力研究所、ラジオグラフィ使用事業所(8社)、照射機メーカー(4社)と数回にわたって試用共同実験 * 以上の成果として、「ガンマ線ラジオグラフィ露出計算尺」作製(昭和41年10月。昭和48年実用新案登録)、「ガンマ線透過撮影法」(昭和43年3月刊行(1968))
文献専門委員会 〔昭和39年 4月～平成 4年 5月〕	○ 「RI理工学利用文献集」(昭和48年以前は「RI工業利用文献抄録集」)の編集を行い、RADIOISOTOPES誌に毎号、理工文献題目集および理工文献紹介を掲載。
中性子水分計および γ 線密度計専門委員会 〔昭和40年 2月～44年 5月〕	○ 水分計、密度計の安定性に関する共同実験(14事業所が参加) * 「中性子水分計およびガンマ線密度計の安定性に関する共同実験結果」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 16, No. 2(1967) ○ 土の密度と含水量測定におけるRI法と在来法の比較共同実験 ○ 中性子水分計およびガンマ線密度測定法マニュアルの検討(未完結)
オートラジオグラフィ専門委員会 〔昭和42年10月～45年 5月〕	○ 金属オートラジオグラフィにおける感光材料の解像力に関する共同実験 * 「理工学におけるオートラジオグラフィの最近の研究」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 19, No. 1(1970) * 「放射性銀試験体を用いたマイクロオートラジオグラフィの分解能に関する研究」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 19, No. 11(1970)
線源専門委員会 〔昭和43年 5月～44年 3月〕	○ 各種密封線源について利用開発上の問題点、検査法等について検討

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
環境汚染物質の放射化分析に関する専門委員会 〔昭和46年 9月～49年11月〕	○ 技術上の問題点、利用促進のための当面および将来の体制整備等に関する検討 * 「環境汚染物質の放射化分析における諸問題」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 24, No. 12(1975)
硫黄分析計専門委員会 〔昭和46年 9月～52年 9月〕	○ 硫黄分析計利用状況アンケート調査 石油中重金属の測定値に及ぼす影響に関する共同実験、硫黄分測定照合実験（参加20機関） * 「RI式硫黄分析計による重油試料測定上の問題点 1. 放射線透過式硫黄分析計」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 24, No. 11(1975) * 「（同上）2. 放射線励起式硫黄分析計」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 24, No. 12(1975) * 「（同上）3. 照合試験」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 25, No. 2(1976) * 「JIS K2285-1978 石油製品放射線透過式硫黄分試験方法」原案の作成（昭和56年3月制定） * 「JIS K2286-1978 石油製品放射線励起式硫黄分試験方法」原案の作成（昭和56年3月制定）
流れの測定に関する専門委員会 〔昭和46年10月～49年 3月〕	○ 野外および各種工程における気体、液体、粉体の流れ・拡散の測定へのRI利用測定技術について検討 * 「表面水流れ測定へのアイソトープの利用」、「化学反応装置内の流れの測定」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 25, No. 3(1976)
環境物質放射化分析専門委員会 〔昭和50年 1月～51年 1月〕	○ 利用状況アンケート調査 * 「放射化分析利用の手引き 環境調査と放射化分析一」（昭和51年5月）を自治体公害調査部門等へ配布 * 「環境物質の調査における放射化分析の利用状況」 Isotope News誌、昭和50年12月号(1975)
環境物質放射化分析マニュアル作成検討専門委員会 〔昭和51年 7月～52年 9月〕	○ 上記2専門委員会の活動成果に基づき、環境試料の放射化分析技術に関する手引書の作成について予備的検討 * 「放射化分析による環境調査－微量・多元素・同時分析の手法」（昭和54年3月刊行(1979)）
放射能標準体使用マニュアル作成専門委員会 〔昭和52年 2月～56年 7月〕	○ 各種の放射能標準体・標準線源の適正な使用に資する解説書の作成 * 「放射能標準体・標準線源とその使用法」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 28, No. 3～12(1979)、Vol. 29, No. 1(1980) 昭和56年5月単行書刊行(1981)
利用機器専門委員会 〔昭和53年 6月～57年 5月〕	○ 放射性同位元素装備機器管理基準に関する調査（科学技術庁委託） * 「JIS Z4821 1981 密封放射線源」原案を作成（昭和56年3月制定） * 「RI装備機器・設計承認制度について」 Isotope News誌、昭和56年5月号(1981)

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
<p>RI野外トレーサ利用専門委員会設立検討会 〔昭和58年 3月～ 9月〕</p> <p>放射線防護機器専門委員会 〔昭和58年 6月～現在〕</p>	<p>○ RI野外トレーサ実験実施上の問題点を抽出し、野外トレーサ利用促進のための専門委員会作業の要否を明らかにし、専門委員会設置の要を報告</p> <p>○ 放射線防護機器に関する資料を収集・検討し、隔年毎に「放射線防護用設備・機器ガイド」を編集・発行。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 「1982年版」 (昭和57年発行) * 「1984年版」 (昭和59年発行) * 「1986/87年版」 (昭和61年発行) * 「1988/89年版」 (昭和63年発行) * 「1990/91年版」 (平成2年発行) * 「1992/93年版」 (平成4年発行) * 「1994/95年版」 (平成6年発行) * 「1996/97年版」 (平成8年発行) * 「1998/99年版」 (平成10年発行) * 「2000/01年版」 (平成12年発行) * 「2002/03年版」 (平成14年発行) * 「2004/05年版」 (平成16年発行) * 「2006/07年版」 (平成18年発行) * 「2008/09年版」 (平成20年発行) * 「2010/11年版」 (平成22年発行) * 「2012/13年版」 (平成24年発行) * 「2014/15年版」 (平成26年発行)
<p>RI野外トレーサ実験調査委員会 〔昭和59年 4月～平成 2年 6月〕</p>	<p>○ RI野外利用の実施を探るため、理工学、農学・生物学の分野で実験の実現が望まれている代表的なモデルについて検討を行うとともに科学技術庁と懇談、折衝。技術基準・安全基準の検討、アンケート調査の実施、講演会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> * 「RI野外トレーサ利用アンケート集計結果報告」 Isotope News誌、昭和62年5月号“あいそとぴっく” (1987) * 「放射性トレーサの野外・現場利用の歴史と現状」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 37, No. 4～6(1988) * 「放射性トレーサの野外・現場利用推進上の問題点」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 39, No. 6(1990)
<p>密封放射線源JIS改訂専門委員会 〔昭和60年 4月～12月〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 「JIS Z4821密封放射線源」 (昭和56年3月制定) の見直し
<p>原子力用語JIS改訂専門委員会 〔昭和61年 8月～平成 4年 5月〕</p>	<p>○ 日本工業規格「JIS Z4001原子力用語」の改訂に当たり、「放射線・アイソトープ利用・防護」部門の用語について調査検討。</p>
<p>理工分野における放射性廃棄物検討専門委員会 〔平成 3年 9月～ 6年 5月〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 「研究分野における放射性廃棄物の取扱い」 (平成6年5月刊行(1994))

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
微弱アイソトープ利用技術専門委員会 〔平成 4年 6月～10年 5月〕	○ 微弱アイソトープ利用の促進と安全性の確保について調査・検討 * 「IAEA安全シリーズ No.102、工業、医学、研究、教育分野におけるアイソトープの安全使用と規則に関する勧告の抄訳」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 44, No. 3(1995) * 「微弱アイソトープの安全利用に関する調査研究報告書」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 48, No. 2～4(1999)
放射性同位体等の産業利用専門委員会 〔平成 7年 8月～12年 5月〕	○ 産業分野におけるRI利用技術の調査、許認可申請の標準化について検討を行った。 * 「RI・放射線の産業利用」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 46, No. 5～10(1997) * 「放射性同位体等の産業利用専門委員会報告書」 (平成12年5月)
放射線教育専門委員会 〔平成7年 8月～16年 5月〕	○ 放射線教育入門テキスト〔ライフサイエンス分野編〕を編集し、テスト版として発行（平成10年3月）。 放射線教育入門テキスト〔医学・臨床分野編〕を（平成11年1月）編集し、テスト版として発行。
量子ビーム専門委員会 〔平成12年 6月～平成18年 5月〕	○ ①新しい量子ビームの発生と利用、②半導体プロセスや医療への放射線利用、③量子ビーム利用に関する法規制の最適化等について検討を行うとともに、外部利用を受け付けるビーム利用施設の調査を行う。 * 「日本における研究用加速器施設の現状アンケートに関する中間報告」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 52, No. 7(2003) * 「日本における研究用加速器施設の現状(2005)調査報告と量子ビーム利用の広がり」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 54, No. 12(2005)
放射線イメージング専門委員会 〔平成12年 6月～平成18年 5月〕	○ 放射線イメージングの技術・学問内容について調査し、他のイメージング技術も参照しつつ、放射線イメージング技術の新しい方向について検討。 * 「放射線イメージング技術の最前線」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 52, No. 10～Vol. 53, No. 6(2003～2004)
超低レベル放射能測定専門委員会 〔平成16年 9月～平成24年 5月〕	○ 通常の放射線計測技術では測定が困難なあるいは検出が不可能な極微弱放射能の測定の重要性が増している現状を認識し、超低レベル放射能測定技術の発展と展望を探るために調査・検討を行う。 * 「超低レベル放射能測定の現状と展望」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 55, No. 4～No. 11(2006)合本冊子を作成。協会ホームページに掲載。 * 「液体シンチレーションカウンタによる測定の現状」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 61, No. 2(2012)に掲載（4題）

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
<p>中性子イメージング専門委員会 〔平成17年 9月～平成22年 5月〕</p> <p>RI・放射線 一般向け教育実験ノート ワーキンググループ</p>	<p>○ 中性子ラジオグラフィの現状を認識し、その技術の発展と展望を探るための調査・検討を行う。</p> <p>* 「中性子イメージング技術の基礎と応用」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 56, No. 4～Vol. 57, No. 5(2007～2008) 合本冊子を作成。協会ホームページに掲載。</p> <p>○ RI・放射線関係者以外の人達にRI・放射線、ひいては自然現象に対する理解を深めて貰うことに寄与するため、RI・放射線等に関する教育的実験についての情報を集め、取り纏めてIsotope News誌に掲載。このような実験を多くの場で取り入れてもらおう一助とする。</p> <p>* 「RI・放射線 一般向け教育実験ノート」 Isotope News誌、平成18年4月号～平成19年5月号、平成20年3月号～5月号、7月号～12月号(2006～2008) 合本冊子を作成。協会ホームページに掲載。</p>
<p>中性子応用専門委員会 〔平成22年 6月～現在〕</p>	<p>○ 発展の著しい中性子関連の幾つかの先端技術の研究について、従来の中性子イメージングに加え、新たに幾つかのテーマを加え研究調査を行う。</p> <p>* 「パルス中性子を用いた分光的イメージング」 Isotope News誌、平成22年6月号“展望”(2010)</p> <p>「農林水産加工分野にひらける中性子イメージングの応用可能性」 Isotope News誌、平成23年2月号“展望”(2011)</p> <p>「中性子の産業利用(トライアルユース)：中性子ラジオグラフィ」 Isotope News誌、平成23年2月号“利用技術”(2011)</p> <p>* 「日本の小型加速器中性子源施設(中性子イメージング利用を中心に)」 Isotope News誌、平成26年1月号“利用技術”(2014)</p> <p>* 中性子イメージング研究の現在 「ナノ粒子合成のための超臨界水・常温水混合状態の中性子ラジオグラフィによる可視化」 Isotope News誌、平成26年5月号“展望”(2014)</p> <p>「コンクリートのイメージング」 Isotope News誌、平成26年6月号“展望”(2014)</p> <p>「軽元素局所構造解明のための原子分解能中性子ホログラフィー」 Isotope News誌、平成26年8月号“展望”(2014)</p> <p>「パルス中性子イメージングによる金属材料研究」 Isotope News誌、平成26年9月号“展望”(2014)</p>

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
<p>中性子応用専門委員会 〔平成22年 6月～現在〕</p>	<p>「植物イメージングの最近の話題」 Isotope News誌、平成26年10月号“展望”（2014）</p> <p>「共鳴中性子イメージングの現状」 Isotope News誌、平成26年11月号“展望”（2014）</p> <p>「パルス中性子用画像検出器の開発」 Isotope News誌、平成27年2月号“展望”（2015）</p> <p>「中性子を用いた磁場の可視化技術」 Isotope News誌、平成27年4月号“展望”（2015）</p> <p>「中性子ラジオグラフィを用いた熱交換器への着想の 評価」 Isotope News誌、平成27年6月号“展望”（2015）</p> <p>「パルス中性子ビームを用いたリチウムイオン二次電 池の充放電反応の非破壊イメージング」 Isotope News誌、平成27年7月号“展望”（2015）</p> <p>「通信品質を小型加速器中性子源が支える！一宇宙線 による通信機器の誤動作を再現し、未然に防ぐための ソフトウェア試験技術」 Isotope News誌、平成27年7月号“展望”（2015）</p> <p>「中性子小角散乱による溶液中のタンパク質の構造解 Isotope News誌、平成28年3月号“展望”（2016）</p>
<p>放射能測定・除染技術等に関する調査検討 専門委員会 〔平成24年 6月～26年 3月〕</p>	<p>○ 東京電力福島第一原子力発電所事故に関連して、測定技 術や除染技術等について現状を踏まえた情報の提供等を 通じ、知識・技術の普及啓発に取り組む。検知・除染等 の技術に係る研究開発の現状を紹介する記事企画を Isotope News誌に提供するほか、ワーキンググループを 設置して放射線に関する基礎的知識の普及および食品等 の放射能測定のための分析法の規格化に関する検討を行 う。</p> <p>* 「面で捉える汚染分布の測定技術 ―ファイバー検出 器による放射性セシウムの測定―」 Isotope News誌、平成25年10月号“TRACER”（2013）</p> <p>「CdTeを用いた放射能分布測定技術」 Isotope News誌、平成25年10月号“TRACER”（2013）</p> <p>「臭化タリウム半導体検出器」 Isotope News誌、平成25年11月号“TRACER”（2013）</p> <p>「原子炉事故におけるβ線被ばく」 Isotope News誌、平成25年11月号“TRACER”（2013）</p>

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
放射能測定・除染技術等に関する調査検討 専門委員会 〔平成24年 6月～26年 3月〕	「USB駆動型PSF空間線量当量率測定システムの実用化と測定実績」 Isotope News誌、平成25年12月号“TRACER”（2013） 「福島第一原子力発電所近傍における放射能除染技術と除染の現状」 Isotope News誌、平成26年5月号“TRACER”（2014） 「SPEEDI を真に原子力防災に生かすために」 Isotope News誌、平成26年9月号“TRACER”（2014）
放射能測定・除染技術等に関する調査検討 専門委員会 放射線に関する基礎的知識の普及ワーキンググループ 〔平成25年 2月～26年 3月〕	○ 東京電力福島第一原子力発電所事故に関連して、放射線等に関する教育を受けていない一般の方を対象とし、主に放射性セシウムに重点を置いた、放射線・放射能に関する基礎的な知識の普及に係るテキストの作成を行う。 「セシウムのABC」平成26年6月発行（2014） ○ 東京電力福島第一原子力発電所事故後の食品中及び環境試料中の放射性セシウムの測定に関する状況を受け、シンチレーションスペクトロメータ（主にNaI(Tl)シンチレーションスペクトロメータ）を用いた測定法に関して、標準試料及び標準測定手順の規格化を行う。 「NaI (Tl) シンチレーションスペクトロメータによるγ線スペクトロメトリーガイドランス」 平成27年3月発行（2015）。協会ホームページに掲載。
放射線理工学若手リーディングサークル 〔平成25年 6月～27年 3月〕	○ 放射線・同位体理工学に関連した研究・技術開発や社会貢献のあり方など、この分野の若手を呼び込むインセンティブとなるような提案について自由に発想し、可能であれば具体化に向けた検討を行う。
次世代スペクトル解析専門委員会 〔平成27年 4月～現在〕	○ ゲルマニウム半導体検出器およびシンチレーション検出器で使用されているスペクトル解析の解析技術および使用されているソフトウェアの現状をレビューし、問題点や改善すべき点を抽出する。さらに、スペクトル解析技術について、日本国内および国外での新しい研究成果や技術開発をレビューする。得られた結果をもとに、次世代スペクトル解析ソフトウェアのあり方を議論し、ソフトウェア開発を行う。

2. ライフサイエンス部会

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
文献専門委員会 〔昭和39年 4月～平成 4年 5月〕	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「RI農学・生物学利用文献集」（昭和55年2月までは「RI農学・生物学利用文献抄録集」）の編集を行い、RADIOISOTOPES誌に毎号、農学・生物学文献題目集および農学・生物学文献トピックスを掲載。
ラジオガスクロマトグラフィ専門委員会 〔昭和43年 3月～50年 9月〕	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農学・生物学分野におけるラジオガスクロマトグラフィに関する技術の利用開発、普及について調査、検討。
¹⁵ N専門委員会 〔昭和48年 9月～51年 2月〕	<ul style="list-style-type: none"> ○ 内外の関係文献の調査と勉強会などを開催し、利用の知識・方法の普及を検討。 安定同位元素専門委員会へ発展的に改組。
安定同位元素専門委員会 〔昭和51年 3月～現在〕	<ul style="list-style-type: none"> ○ 安定同位元素に関し、その研究・利用の全般的な推進に資する活動を行う。 <ul style="list-style-type: none"> * 総説「安定同位体利用技術」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 56, No. 6～Vol. 57, No. 3、Vol. 57, No. 9(2007～2008) * 総説「安定同位体利用技術」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 59, No. 7, No. 11(2010) * 総説「安定同位体利用技術」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 61, No. 3(2012)、Vol. 62, No. 2、No. 4(2013) * 総説「安定同位体利用技術」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 63, No. 12(2014)、Vol. 64, No. 3(2015)、Vol. 64, No. 4(2015)、Vol. 64,
微量RIの管理に関する専門委員会 〔昭和48年 9月～57年 5月〕	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生化学分野における微量RIの使用施設の在り方、排水処理の方法、貯蔵・保管の方法、固体廃棄物・有機廃液の処理等の可能性について検討。
遺伝子工学専門委員会 〔昭和61年10月～平成 4年 5月〕	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生物学関連の遺伝子工学分野におけるRI利用状況を調査 <ul style="list-style-type: none"> * 「遺伝子工学実験講座」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 36, No. 10～Vol. 38, No. 2, 4(1987～1989) 合本し、「遺伝子工学実験 Strategy & Practice」として平成3年5月出版(1991)。
アイソトープトレーサ研究用機器専門委員会 〔平成 4年 6月～平成22年5月〕	<ul style="list-style-type: none"> ○ RIをトレーサとして用いる研究用機器について、その原理、性能、特徴および適切な用途等の最新情報を収集し、公表した。 <ul style="list-style-type: none"> * 「バイオサイエンスのためのアイソトープ測定機器」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 42, No. 10～No. 12、Vol. 43, No. 1(1993～1994) * 「バイオサイエンスのためのアイソトープ測定機器（第二シリーズ）」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 44, No. 8～No. 12、Vol. 45, No. 1～No. 2(1995～1996)

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
<p>アイソトープトレーサ研究用機器専門委員会 〔平成 4年 6月～平成22年5月〕</p> <p>分子生物学分野のRI取扱専門委員会 (平成8年6月より、「ライフサイエンス分野 のRI取扱専門委員会」に名称変更) 〔平成 4年 6月～平成14年 5月〕</p>	<p>* 「バイオサイエンスのためのアイソトープ測定機器 (第三シリーズ)」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 47, No. 11～No. 12、 Vol. 48, No. 1～No. 5, No. 7～No. 9, No. 11～No. 12 Vol. 49, No. 1～No. 2, No. 10～No. 12、 Vol. 50, No. 1～No. 2(1998～2001) 第一、第二シリーズの合本冊子を作成。 第三シリーズを協会ホームページに掲載。 (平成14年2月)</p> <p>* 「ライフサイエンスのためのアイソトープ測定機器 (第四シリーズ)」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 52, No. 3～No. 6、 Vol. 53, No. 3, Vol. 54, No. 1～No. 2, No. 7～ No. 8(2003～2005) 第四シリーズを協会ホームページに掲載。 (平成17年9月)</p> <p>* 「ライフサイエンスのためのアイソトープ測定機器 (第五シリーズ)」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 55, No. 7～No. 10、 Vol. 56, No. 3～No. 4, No. 9, Vol. 57, No. 2、 Vol. 58, No. 7 (2006～2009)</p> <p>○ 分子生物学分野 (ライフサイエンス分野) におけるRI取 扱上の諸問題について安全で円滑な利用を図るための調 査、検討を行った。</p> <p>* 「分子生物学分野のRI取扱専門委員会報告」 Isotope News誌、平成6年9月号 “会員へのお知らせ” (1994)</p> <p>* 「分子生物学分野のRI取扱専門委員会報告 －「監督区域」設置の可能性を探るアンケートの結 果－」 “会員へのお知らせ” (1995)</p> <p>* 「ライフサイエンスの話題」 Isotope News誌、平成15年2月号～5月号(2003)</p>
<p>薬学・薬理学研究専門委員会 〔平成 6年11月～現在〕</p>	<p>○ 薬学・薬理学研究分野におけるRI利用の問題点を調査し た。</p> <p>* 「薬学・薬理学研究専門委員会報告－薬学・薬理学研 究分野のRI取扱いに関するアンケート結果－」 Isotope News誌、平成9年4月号 “会員へのお知らせ” (1997)</p> <p>* 「薬学・薬理学研究専門委員会報告－薬学・薬理学研 究分野における放射線・放射能計測法に関するアン ケート結果－」 Isotope News誌、平成11年11月号 “会員へのお知ら せ” (1999)</p> <p>* 「R I 計測のためのQ & A」 協会ホームページに掲載。(平成17年7月) (2005)</p> <p>* 「マイクロドーズ試験の現状と展望」 Isotope News誌、平成20年4月号 “展望” (2008)</p>

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
獣医核医学専門委員会 〔平成14年 6月～平成22年5月〕	○ 伴侶動物への核医学診療における諸問題の検討を行う。 * 「獣医核医学専門委員会 中間報告書」 (平成15年9月2日) (2003)
食品照射専門委員会 〔平成14年 6月～平成22年5月〕	○ 食品照射についての内外の情報を集め、調査・検討を行う。 * 「食品照射に関するQ&A」 協会ホームページに掲載。(平成20年11月) (2008)
下限数量以下の非密封R Iの安全取扱に関する専門委員会 〔平成26年 5月～現在〕	○ 下限数量以下の非密封放射性物質の利用促進に資するため、その安全かつ具体的使用方法に関する検討を行う。

3. 医学・薬学部会

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
<p>インビトロテスト専門委員会 〔昭和46年 9月～平成22年 5月〕</p>	<p>* 「RIインビトロ検査全国コントロールサーベイ」 (第1回～21回までRADIOISOTOPES誌に掲載)</p> <p>* 「イムノアッセイ検査全国コントロールサーベイ」 (第22回より名称変更。RADIOISOTOPES誌に掲載)</p> <p>第1回(1978年実施)、Vol. 29, No. 11(1980) 第2回(1979年実施)、Vol. 30, No. 1(1981) 第3回(1980年実施)、Vol. 31, No. 7(1982) 第4回(1982年実施)、Vol. 32, No. 6(1983) 第5回(1983年実施)、Vol. 32, No. 7, 8(1983) 第6回(1984年実施)、Vol. 34, No. 9(1985) 第7回(1985年実施)、Vol. 35, No. 10(1986) 第8回(1986年実施)、Vol. 36, No. 10(1987) 第9回(1987年実施)、Vol. 37, No. 11(1988) 第10回(1988年実施)、Vol. 38, No. 10(1989) 第11回(1989年実施)、Vol. 39, No. 10(1990) 第12回(1990年実施)、Vol. 40, No. 10(1991) 第13回(1991年実施)、Vol. 41, No. 11(1992) 第14回(1992年実施)、Vol. 42, No. 11(1993) 第15回(1993年実施)、Vol. 43, No. 10(1994) 第16回(1994年実施)、Vol. 44, No. 11(1995) 第17回(1995年実施)、Vol. 45, No. 11(1996) 第18回(1996年実施)、Vol. 46, No. 11(1997) 第19回(1997年実施)、Vol. 47, No. 11(1998) 第20回(1998年実施)、Vol. 48, No. 11(1999) 第21回(1999年実施)、Vol. 49, No. 10(2000) 第22回(2000年実施)、Vol. 50, No. 10(2001) 第23回(2001年実施)、Vol. 51, No. 10(2002) 第24回(2002年実施)、Vol. 52, No. 10(2003) 第25回(2003年実施)、Vol. 53, No. 10(2004) 第26回(2004年実施)、Vol. 54, No. 10(2005) 第27回(2005年実施)、Vol. 55, No. 10(2006) 第28回(2006年実施)、Vol. 56, No. 10(2007) 第29回(2007年実施)、Vol. 57, No. 10(2008) 第30回(2008年実施)、Vol. 58, No. 10(2009)</p> <p>* 「The Large “Kit-to-Kit” Variation in Insulin Radioimmunoassay is Mainly Due to Defference in Standard Concentration」 CHEMISTRY, Vol. 28, No. 12</p> <p>* 「An Inter- and Intra-laboratory Quality-Control Survey of Radioimmunoassay of Insulin, Thyroxin, Thyrotropin, Cortisol, Digoxin, Gastrin, β2-Microglobulin and IgE in Japan with Commercially Available Kits」 CHEMISTRY, Vol. 29, No. 8</p> <p>* 「RIインビトロ検査の現状と問題点」 Isotope News誌、1992年2～3月号</p>

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
放射性医薬品安全性専門委員会 〔昭和50年10月～現在〕	<ul style="list-style-type: none"> * 「放射性医薬品副作用事例調査報告」 核医学、16巻3号(1979) * 「第2回放射性医薬品副作用事例調査報告」 核医学、18巻3号(1981) * 「放射性医薬品副作用事例調査報告」 (第3報～33報まで『核医学』に掲載) 第3報(19巻7号(1982))、第4報(20巻4号(1983)) 第5報(21巻3号(1984))、第6報(22巻4号(1985)) 第7報(23巻4号(1986))、第8報(24巻4号(1987)) 第9報(25巻4号(1988))、第10報(26巻4号(1989)) 第11報(28巻3号(1991))、第12報(28巻4号(1991)) 第13報(29巻3号(1992))、第14報(30巻5号(1993)) 第15報(31巻3号(1994))、第16報(32巻6号(1995)) 第17報(33巻6号(1996))、第18報(34号4号(1997)) 第19報(35巻3号(1998))、第20報(36巻3号(1999)) 第21報(37巻3号(2000))、第22報(38巻2号(2001)) 第23報(39巻1号(2002))、第24報(40巻1号(2003)) 第25報(41巻1号(2004))、第26報(42巻1号(2005)) 第27報(43巻1号(2006))、第28報(44巻1号(2007)) 第29報(45巻1号(2008))、第30報(46巻1号(2009)) 第31報(47巻1号(2010))、第32報(48巻1号(2011)) 第33報(49巻1号(2012))、第34報(50巻1号(2013)) 第35報(51巻1号(2014))、第36報(52巻1号(2015)) 第37報(53巻1号(2016)) * 「放射性医薬品の副作用事例報告について—調査報告書における症例数と製薬会社が収集した自発症例数との比較—」 核医学、43巻4号(2006)
核医学イメージング規格化小委員会 〔昭和51年 1月～昭和52年12月〕	<ul style="list-style-type: none"> * 「アンガー型シンチレーションカメラの性能試験条件」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 26, No. 10(1977)
核医学イメージング規格化専門委員会 〔昭和53年 1月～平成 8年 5月〕	<ul style="list-style-type: none"> * 「核医学イメージングの規格化に関する勧告」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 28, No. 11(1979) * 「シンチカメラ性能の定期点検に関する勧告」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 30, No. 7(1981) * 「キュリーメータの試験方法」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 32, No. 4(1983) * 「Single Photon Emission Computed Tomography装置の性能試験条件」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 33, No. 3(1984) * 「核医学イメージングの規格化に関する勧告(1984改定)」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 32, No. 9(1983) * 「SPECT像表示の規格化に関する勧告」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 35, No. 8(1986) * 「核医学イメージングの規格化に関する勧告(1987年第2次改定)」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 37, No. 2～3(1988) * 「核医学イメージングのための小児への放射性医薬品投与量に関する勧告」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 37, No. 11(1988)

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
核医学イメージング規格化専門委員会 〔昭和53年 1月～平成 8年 5月〕	<ul style="list-style-type: none"> * 「SPECT装置の回転軸ずれおよびイメージサイズ変動に関する日常試験」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 39, No. 2(1990) * 「核医学イメージング装置の保守点検に関する実態調査報告」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 41, No. 3(1992) * 「ガンマカメラによるデジタル画像の表示・記録に関する指針」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 43, No. 1(1994) * 「標準的な核医学イメージングプロトコール(1994年第3次改訂)」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 43, No. 9(1994) * 「日常臨床における心臓核医学検査の選択に関する試案」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 45, No. 3(1996)
核医学技術専門委員会 (平成6年6月～8年5月まで核医学技術小委員会として核医学イメージング規格化専門委員会に置かれる) 〔昭和59年 6月～平成 6年 5月〕	<ul style="list-style-type: none"> * 「核医学検査室における機器および施設等の安全管理に関するアンケート調査結果」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 36, No. 9(1987) * 「核医学検査室における機器及び施設等の安全管理に関するアンケート調査報告 第2報」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 39, No. 11(1990) * 「核医学検査室における機器等の安全管理に関するアンケート調査報告 第3報」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 43, No. 3(1994) * 「キュリーメータの測定精度実態調査報告」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 43, No. 8(1994)
核医学イメージング・検査技術専門委員会 (平成8年より核医学イメージング規格化専門委員会と核医学技術小委員会が合併した) 〔平成 8年 6月～現在〕	<ul style="list-style-type: none"> * 「核医学検査室における機器等の安全管理に関するアンケート調査報告 第4報」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 45, No. 12(1996) * 「核医学画像と形態画像 (CT/MRI) の重ね合わせの現状と普及に向けての提案」 Isotope News誌、1997年11月号 * 「デジタルガンマカメラおよびSPECT装置の定期点検」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 47, No. 5(1998) * 「核医学の安全管理等に関するアンケート調査報告第5報」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 48, No. 8(1999) * 「全身イメージングにおける適正スキャン速度に関する指針」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 51, No. 7(2002) * 「核医学検査における安全管理等に関するアンケート調査報告 第6報」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 51, No. 8(2002) * 「核医学紹介シリーズ」 (平成14年10月) * 「核医学検査における安全管理等に関するアンケート調査報告 第7報」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 54, No. 7(2005) * 「核医学検査における安全管理等に関するアンケート調査報告 第8報」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 57, No. 7(2008)

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
核医学イメージング・検査技術専門委員会 〔平成 8年 6月～現在〕	<ul style="list-style-type: none"> * 核医学検査における安全管理等に関するアンケート調査報告 第9報 RADIOISOTOPES誌、Vol. 60, No. 7, 8(2011) * 全国を対象とした「核医学検査における安全管理等に関するアンケート調査報告」第10報 RADIOISOTOPES誌、Vol. 63, No. 7(2014) * 「ドーズキャリブレーションの管理及び点検のマニュアル」(2016) 協会ホームページに掲載 * PET装置の品質管理・品質保証に関するアンケート調査報告 RADIOISOTOPES誌、Vol. 61, No. 11(2012)
医療放射線管理問題専門委員会 〔昭和53年 1月～57年 7月〕	<ul style="list-style-type: none"> * 「平均使用数量の導入による ^{11}C、^{13}N、^{15}O、^{18}F の1日最大使用数量の求め方」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 31, No. 7(1982)
核医学用語分類専門委員会 〔昭和53年 1月～59年11月〕	<ul style="list-style-type: none"> * 「医療行為の国際分類(ICPM)コード利用による全国核医学診療実態調査報告」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 32, No. 9(1983)
サイクロトロン核医学利用専門委員会 (平成17年11月より、「ポジトロン核医学利用専門委員会」に名称変更) 〔昭和56年 9月～現在〕	<ul style="list-style-type: none"> * 院内サイクロトロンにより製造される放射性薬剤の臨床利用について Isotope News誌、1983年9月号 * 「日本アイソトープ協会医学・薬学部サイクロトロン核医学利用専門委員会において成熟技術として認定された放射性薬剤の基準と臨床使用に関する指針：I 医療施設ないし医学研究施設内の加速器等で生産された超短寿命核種の臨床利用に関する指針、II 院内サイクロトロン放射性薬剤に関する指針、III 院内サイクロトロン放射性薬剤の臨床利用に関する指針、IV サイクロトロン核医学利用専門委員会が成熟技術として認定した放射性薬剤の基準と臨床使用の指針」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 34, No. 11(1985) * 「院内サイクロトロン放射性薬剤の前臨床段階における安全性の評価に関する指針」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 35, No. 11(1986) * 「日本アイソトープ協会医学・薬学部サイクロトロン核医学利用専門委員会において成熟技術として認定された放射性薬剤の基準と臨床利用に関する指針(続報I)」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 37, No. 8(1988) * 「サイクロトロン核医学利用専門委員会が成熟技術として認定した放射性薬剤の基準と臨床使用の指針(1990年改定)」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 40, No. 3(1991) * 「What is PET? “Q and A” —PETをよりよく理解するために—」 * PET装置の性能評価のための測定指針(1992年4月) * PET装置の性能評価のための測定指針(1994年6月改訂) RADIOISOTOPES誌、Vol. 43, No. 9(1994)

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
<p>サイクロトロン核医学利用専門委員会 (平成17年11月より、「ポジトロン核医学利用 専門委員会」に名称変更) 〔昭和56年 9月～現在〕</p> <p>ポジトロン核医学利用専門委員会</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 「サイクロトロン核医学利用専門委員会が成熟技術として認定した放射性薬剤の基準と臨床使用の指針(1994年改定)」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 44, No. 6(1995) * 「サイクロトロン核医学利用専門委員会が成熟技術として認定した放射性薬剤の基準と臨床使用の指針(1999年改定)」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 48, No. 12(1999) * 「PET薬剤製造施設基準」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 49, No. 3(2000) * 「FDG-PET検査の臨床的有用性と医療経済効果に関する全国調査報告」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 49, No. 3(2000) * 「院内製造されたFDGを用いてPET検査を行うためのガイドライン」 核医学、38巻2号(2001) * 「サイクロトロン核医学利用専門委員会が成熟技術として認定した放射性薬剤の基準(2001年改定)」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 50, No. 5(2001) * 「『サイクロトロン核医学利用専門委員会が成熟技術として認定した放射性薬剤の基準(2001年改定)』に関する解説」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 50, No. 5(2001) * 「『サイクロトロン核医学利用専門委員会が成熟技術として認定した放射性薬剤の基準(2001年改定)』に関する参考資料」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 50, No. 5(2001) * 「サイクロトロン核医学利用専門委員会が成熟技術として認定した放射性薬剤の基準と臨床使用の指針(1999年改定追補)」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 50, No. 7(2001) * 「PET検査件数に関するアンケート調査報告」 Isotope News誌、2003年11月号 * 「PET検査件数に関するアンケート調査報告 第2報」 Isotope News誌、2005年2月号 * 「院内製造されたFDGを用いたPET検査を行うためのガイドライン 第2版」 核医学、42巻4号(2005) * 「PET検査件数に関するアンケート調査報告 第3報」 Isotope News誌、2006年10月号 * 「PET検査件数に関するアンケート調査報告 第4報」 Isotope News誌、2008年1月号 * 「保険診療に認められていない悪性腫瘍(癌、肉腫)の診断における¹⁸F]FDG-PETの臨床的有用性—多施設アンケート調査による検討—」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 57, No. 1(2008)

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
ポジトロン核医学利用専門委員会	<ul style="list-style-type: none"> * 「PET用放射性医薬品の合成、分注、品質管理に携わる作業者の被ばく線量調査報告」 Isotope News誌、2008年10月号 * 「PET検査件数に関するアンケート調査報告 第5報」 Isotope News誌、2008年12月号 * 「PET核医学におけるサイクロトロン施設からの漏えい線量等に係る検討ワーキンググループ報告書」(2009) * 「ポジトロン核医学利用専門委員会が成熟技術として認定した放射性薬剤の基準(2009年改定)」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 58, No. 6(2009) * 「『ポジトロン核医学利用専門委員会が成熟技術として認定した放射性薬剤の基準(2009年改定)』に関する解説」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 58, No. 6(2009) * 「『ポジトロン核医学利用専門委員会が成熟技術として認定した放射性薬剤の基準(2009年改定)』に関する参考資料」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 58, No. 6(2009) * 「ポジトロン核医学利用専門委員会が成熟技術として認定した放射性薬剤の臨床使用の指針(2009年改定)」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 58, No. 6(2009) * 「PET検査件数に関するアンケート調査報告 第6報」 Isotope News誌、2009年6月号 * 「PET検査件数に関するアンケート調査報告 第7報」 Isotope News誌、2010年7月号 * 「ポジトロン核医学利用専門委員会が成熟技術として認定した放射性薬剤の基準」の今後のあり方について—「研究」と「診療」の境界を結ぶ— RADIOISOTOPES誌、Vol. 59, No. 9(2010) * 「PET検査件数に関するアンケート調査報告 第8報」 Isotope News誌、2011年11月号 * 「PET検査件数に関するアンケート調査報告 第9報」 Isotope News誌、2012年5月号 * 「PET検査件数に関するアンケート調査報告 第10報」 Isotope News誌、2013年8月号 * 「PET検査件数に関するアンケート調査報告 第11報」 Isotope News誌、2014年6月号 * 「PET検査に携わる人の被ばく状況に関するアンケート調査報告」 Isotope News誌、2015年3月号 * 「PET検査件数に関するアンケート調査報告 第12報」 Isotope News誌、2015年4月号 * 「PET検査件数に関するアンケート調査報告 第13報」 Isotope News誌、2016年3月号

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
薬学専門委員会 (平成6年より「放射性医薬品専門委員会」に 名称変更) [昭和44年 6月～平成 6年]	* 「放射性医薬品の最近の話題」(RADIOISOTOPES誌講座 合本) RADIOISOTOPES誌、Vol. 33, No. 1～7(1984) * 「放射性医薬品の安全取扱と管理」 JJSHP、Vol. 26, No. 12 (1990)
放射性医薬品専門委員会 [平成 6年 6月～現在]	* 「治療用放射性医薬品に関するアンケート調査報告」 Isotope News誌、1998年11月号 * 「標識キット方式による ^{99m} Tc放射性医薬品の調製につい て」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 53, No. 3(2004) * 「薬による放射性医薬品の体内挙動の変化について」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 56, No. 1(2007) * 「国内未承認放射性医薬品の現状について」 Isotope News誌、2013年4月号 * 「国内未承認放射性医薬品の現状について(2)」 Isotope News誌、2014年5月号 * 「放射性医薬品取扱いの基本に関するQA集」(2015) 協会ホームページに掲載 * 「国内未承認放射性医薬品の現状について(3)」 Isotope News誌、2015年11月号
放射線治療専門委員会 [昭和57年 6月～平成 4年 5月、 平成12年 6月～現在]	* 「医療用密封小線源の管理(RADIOISOTOPES誌講座合本)」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 36, No. 2～6(1987) * 「シード線源による前立腺永久挿入密封小線源治療の安 全管理に関するガイドライン」(初版・第二版)(2003) * 「シード線源による前立腺永久挿入密封小線源治療の安 全管理に関するガイドライン」(第三版)(2004) * 「シード線源による前立腺永久挿入密封小線源治療の安 全管理に関するガイドライン」(第四版)(2005) * 「前立腺癌小線源療法後1年以内死亡時の対応マニユア ル」(2008) * 「シード線源による前立腺永久挿入密封小線源治療の安 全管理に関するガイドライン」(第五版)(2011) * 「シード線源永久挿入術後の前立腺摘出ガイダンス」 (2014) * 「高線量率RALS安全取扱マニュアル」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 48, No. 10(1999)
医療放射線管理専門委員会 [平成 8年 9月～現在]	* 核医学診療施設における研究ボランティアの放射線被ば くの現状と今後の課題 —RIを投与する臨床研究または 治験を受けるボランティアの被ばくに関するアンケート 調査報告— RADIOISOTOPES誌、Vol. 59, No. 11(2010)

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
核医学診療実態調査専門委員会 (平成8年より「全国核医学診療実態調査専門委員会」に名称変更)	* 「第2回全国核医学診療実態調査報告」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 38, No. 4(1989) * 「第3回全国核医学診療実態調査報告」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 42, No. 9～10(1993)
全国核医学診療実態調査専門委員会 〔平成 8年 6月～10年 5月〕	* 「第4回全国核医学診療実態調査報告」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 47, No. 8(1998)
全国核医学診療実態調査専門委員会 〔平成13年 9月～16年 5月〕	* 「第5回全国核医学診療実態調査報告書」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 52, No. 8(2003) * Nuclear medicine practice in Japan: A report of the 5th nationwide survey in 2002 Annals of Nuclear Medicine Vol. 18, No. 1
全国核医学診療実態調査専門委員会 〔平成18年10月～20年 5月〕	* 「第6回全国核医学診療実態調査報告書」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 57, No. 8(2008) * Nuclear medicine practice in Japan: a report of the sixth nationwide survey in 2007 Annals of Nuclear Medicine Vol. 23, No. 2
全国核医学診療実態調査専門委員会 〔平成23年10月～25年 9月〕	* 「第7回全国核医学診療実態調査報告書」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 62, No. 8(2013) Nuclear medicine practice in Japan: a report of the seventh nationwide survey in 2012 Annals of Nuclear Medicine Vol. 28(10)
アイソトープ内用療法専門委員会 〔平成18年 5月～現在〕	* 「有痛性骨転移の疼痛治療における塩化ストロンチウム (Sr-89)治療の適正使用マニュアル」 (初版)(2007) * 「有痛性骨転移の疼痛治療における塩化ストロンチウム (Sr-89)治療の適正使用マニュアル」 (第二版・第三版)(2008) * 「イットリウム-90標識抗CD20抗体を用いた放射免疫療法 の適正使用マニュアル」(初版)(2008) * 「有痛性骨転移の疼痛治療における塩化ストロンチウム (Sr-89)治療の適正使用マニュアル」 (第四版)(2009) * 「有痛性骨転移の疼痛治療における塩化ストロンチウム (Sr-89)治療の適正使用マニュアル」 (第四版第二刷)(2011) * 「有痛性骨転移の疼痛治療における塩化ストロンチウム (Sr-89)治療の適正使用マニュアル」 (第五版)(2013) * 「有痛性骨転移の疼痛治療における塩化ストロンチウム (Sr-89)治療の適正使用マニュアル」 (第五版第二刷)(2015) * 「イットリウム-90標識抗CD20抗体を用いた放射免疫療法 の適正使用マニュアル」(第二版)(2009) * 「イットリウム-90標識抗CD20抗体を用いた放射免疫療法 の適正使用マニュアル」(第二版第二刷)(2011)

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
標識抗体医学利用専門委員会 〔昭和63年 4月～平成 3年 5月〕	* 「医学研究施設内で作られたRI標識モノクローナル抗体の臨床利用に関する指針」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 39, No. 12(1990) 核医学、第28巻3号(1991) 日本医放会誌、第51巻5号(1991)
放射性医薬品施設内管理専門委員会 〔平成 1年10月～ 4年 5月〕	* 「放射性医薬品の施設内取扱に関する指針」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 41, No. 2(1992)
免疫核医学専門委員会 〔平成 5年 7月～ 8年 5月〕	* 「遺伝子組換え技術を応用して作られたRI標識モノクローナル抗体の臨床利用に関する指針」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 43, No. 8(1994) * 「RI標識モノクローナル抗体の臨床利用に関する指針」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 44, No. 8(1995)

4. 放射線安全取扱部会*

* 平成24年4月に、放射線取扱主任者部会より名称変更

4.1 組織改正以前（昭和34年12月～平成 4年 5月）

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
<p>東京常任委員会 〔昭和34年12月～平成 4年 5月〕</p>	<p>* Isotope News No. 68～382「主任者コーナー」の編集 (1960. 4～1992. 5) * 「第1種放射線取扱主任者試験問題と解答例」 (第5～36回) Isotope News(1961～1992) * 「放射線施設の火災対策」(1961) * 「密封小線源の取扱」(1962) * 「個人外部被ばくモニタリングの手引き」(1964) * 「放射線管理実務マニュアルⅠ」(1983) * 「放射線施設の火災・地震対策」(1985) * 「外部被ばくモニタリング」(1986) * 「千葉県東方沖地震状況調査」 Isotope News 1988年8月号 * 「千葉県東方沖地震状況調査」 Radioisotopes 38, 2(1989) * 「改訂放射線管理実務マニュアルⅠ」(1989) * 「放射線障害防止教育訓練用OHPシート」(1991) * 「放射線管理実務マニュアルⅡ」(1991) * 「現行法令の課題」(1992)</p>
<p>関西常任委員会 〔昭和36年 7月～平成 4年 5月〕</p>	<p>* 「第2種放射線取扱主任者試験問題と解答例」 (第1～33回) Isotope News(1961～1992) * 「放射線とアイソトープ」(1962)</p>
<p>中部常任委員会 〔昭和55年 6月～平成 4年 5月〕</p>	
<p>北海道地方委員 〔平成 2年 4月～平成 4年 5月〕</p>	
<p>東北地方委員 〔昭和57年11月～平成 4年 5月〕</p>	
<p>九州地方委員 〔昭和57年11月～平成 4年 5月〕</p>	
<p>基盤整備委員会 〔平成 2年11月～平成 3年 3月〕</p>	<p>* 「平成3年度主任者研修会（第32回部会総会）要旨集 (補冊)」(1991) 基盤整備委員会報告書</p>
<p>新体制移行委員会 〔平成 3年 9月～平成 4年 3月〕</p>	

4.2 組織改正以後（平成 4年 6月～現在）

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
<p>【本部組織】 本部運営委員会 〔平成 4年 6月～現在〕</p> <p>・企画専門委員会 （平成24年4月～企画委員会より名称変更） 〔平成 4年 6月～現在〕</p> <p>・広報専門委員会 （平成24年4月～広報委員会より名称変更） 〔平成 4年 6月～現在〕</p> <p>・法令検討専門委員会 （平成24年4月～法令検討委員会より名称変更） 〔平成 4年 6月～現在〕</p>	<p>* 「主任者部会設立50周年資料集」 平成24年9月（2012）</p> <p>* 「東日本大震災放射線施設状況調査報告」 Isotope News, 2012, 7月号, P. 61</p> <p>* 「平成 4年度主任者研修会（第33回部会総会）要旨集」（1992）</p> <p>* 「21世紀の主任者部会活動に向けて」（1996）</p> <p>* ニューメディア教育訓練用教材CD-ROM試作版（1999年8月）</p> <p>* Isotope News No. 383～743「主任者コーナー」の編集（1992. 6～2016. 3）</p> <p>* 「主任者ニュース」第 1～19号編集（1995～2013）</p> <p>* 「改訂 3版 放射線管理実務マニュアル I」 平成5年9月（1993）</p> <p>* 法令検討委員会報告（案）（現行法令の課題） （平成11年10月）</p> <p>* 法令検討委員会報告（現行法令の課題） 平成12年度主任者年次大会要旨集, 2000, P. 223</p> <p>* 法令改正への対応に際してのQ & A（1） Isotope News, 2001, 6月号, P. 47</p> <p>* 法令改正への対応に際してのQ & A（2） Isotope News, 2001, 7月号, P. 50</p> <p>* Q & A : BSS免除レベルの取り入れで法令はどう変わるのか Isotope News, 2003, 11月号, P. 63</p> <p>* 法令検討委員会報告書「放射線取扱主任者のあり方」について Isotope News, 2004, 7月号, P. 79</p> <p>* 改正法令に関するQ & A : 放射線障害防止法及び関係政省令等の改正について Isotope News, 2005, 6月号, P. 45</p> <p>* 「事業主の責務と放射線取扱主任者のあり方について」 Isotope News, 2006, 4月号, P. 76</p> <p>* 「放射性同位元素使用施設等で発生する廃棄物のクリアランスについての現状」 Isotope News, 2006, 10月号, P. 11</p> <p>* クリアランスを巡る最近の動きについて —クリアランスの運用状況及びICRPの新勧告— Isotope News, 2008, 5月号, P. 64</p> <p>* 放射線管理Q & A Isotope News, 2009, 10月号, P. 63</p> <p>* 放射線管理Q & A Isotope News, 2010, 11月号, P. 50</p> <p>* 放射線管理Q & A Isotope News, 2012, 11月号, P. 57</p>

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
<ul style="list-style-type: none"> ・組織化推進委員会 〔平成 8年 6月～平成14年 5月〕 	<ul style="list-style-type: none"> * 「選任放射線取扱主任者のアンケート調査」結果報告 Isotope News, 2000, 6月号, P. 53
<ul style="list-style-type: none"> ・主任者部会－21世紀のあり方検討委員会 〔平成 8年11月～平成12年 5月〕 	<ul style="list-style-type: none"> * 「組織化推進委員会活動報告」 Isotope News, 2002, 7月号, P. 49
<ul style="list-style-type: none"> ・放射線管理技術検討委員会 〔平成10年 4月～平成14年 5月〕 	<ul style="list-style-type: none"> * 「主任者部会・21世紀のあり方」中間報告書 平成11年度主任者年次大会要旨集, 1999, P. 135
<ul style="list-style-type: none"> ・製薬放射線委員会 〔平成10年 6月～平成12年 5月〕 	<ul style="list-style-type: none"> * 「主任者部会・21世紀のあり方」報告書 (平成11年11月)
<ul style="list-style-type: none"> ・放射線管理技術検討委員会 〔平成10年 4月～平成14年 5月〕 	<ul style="list-style-type: none"> * 「放射線施設の遮蔽能力・放射性物質飛散率評価に関する調査研究（中間報告）」(1998)
<ul style="list-style-type: none"> ・放射線管理技術検討委員会活動報告 	<ul style="list-style-type: none"> * 「放射線管理技術検討委員会活動報告」 Isotope News, 2002, 10月号, P. 63
<ul style="list-style-type: none"> ・製薬放射線委員会 〔平成10年 6月～平成12年 5月〕 	<ul style="list-style-type: none"> * 「ラジオアイソトープを用いた動物実験での文献調査－飛散率について－」 RADIOISOTOPES誌 Vol. 47, No. 11(1998)
<p>【 支部組織 】</p>	
<p>北海道支部委員会 〔平成 4年 6月～現在〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 「北海道東方沖地震放射線施設状況調査」 Isotope News, 1995, 10月号, P. 79
<ul style="list-style-type: none"> ・平成11年度主任者年次大会実行委員会 	<ul style="list-style-type: none"> * 「第1種放射線取扱主任者試験問題と解答例」 (第57～59回) Isotope News(2013～2015) (生物学)
<ul style="list-style-type: none"> ・平成19年度主任者部会年次大会実行委員会 	<ul style="list-style-type: none"> * 「平成11年度主任者年次大会（第40回主任者研修会）要旨集」(1999)
<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度放射線安全取扱部会年次大会実行委員会 	<ul style="list-style-type: none"> * 「平成19年度主任者部会年次大会（第48回放射線管理研修会）要旨集」(2007)
<p>東北支部委員会 〔平成 4年 6月～現在〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 「平成26年度放射線安全取扱部会年次大会（第55回放射線管理研修会）要旨集」(2014)
<ul style="list-style-type: none"> ・平成7年度主任者年次大会実行委員会 	<ul style="list-style-type: none"> * 「三陸はるか沖地震放射線施設状況調査」 Isotope News, 1995, 10月号, P. 74
<ul style="list-style-type: none"> ・平成16年度主任者部会年次大会実行委員会 	<ul style="list-style-type: none"> * 「第1種放射線取扱主任者試験問題と解答例」 (第57～59回) Isotope News(2013～2015) (物理学)
<ul style="list-style-type: none"> ・平成23年度主任者部会年次大会実行委員会 	<ul style="list-style-type: none"> * 「平成7年度主任者年次大会（第36回主任者研修会）要旨集」(1995)
<ul style="list-style-type: none"> ・平成16年度主任者部会年次大会実行委員会 	<ul style="list-style-type: none"> * 「平成16年度主任者部会年次大会（第45回放射線管理研修会）要旨集」(2004)
<ul style="list-style-type: none"> ・平成23年度主任者部会年次大会実行委員会 	<ul style="list-style-type: none"> * 「平成23年度主任者部会年次大会（第52回放射線管理研修会）要旨集」(2011)
<p>関東支部委員会 〔平成 4年 6月～現在〕</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・第1種放射線取扱主任者試験問題解答例作成委員会（～2012） 	<ul style="list-style-type: none"> * 「第1種放射線取扱主任者試験問題と解答例」 (第37～56回) Isotope News(1992～2012)
<ul style="list-style-type: none"> ・平成8年度主任者年次大会実行委員会 	<ul style="list-style-type: none"> * 「第1種放射線取扱主任者試験問題と解答例」 (第57～59回) Isotope News(2013～2015) (管理測定技術)
<ul style="list-style-type: none"> ・平成8年度主任者年次大会実行委員会 	<ul style="list-style-type: none"> * 「平成8年度主任者年次大会（第37回主任者研修会）要旨集」(1996)

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
関東支部委員会 ・平成12年度主任者年次大会実行委員会 ・平成15年度主任者部会年次大会実行委員会 ・平成21年度主任者部会年次大会実行委員会	＊「平成12年度主任者年次大会（第41回主任者研修会）要旨集」（2000） ＊「平成15年度主任者部会年次大会（第44回放射線管理研修会）要旨集」（2003） ＊「平成21年度主任者部会年次大会（第50回放射線管理研修会）要旨集」（2009）
中部支部委員会 〔平成 4年 6月～現在〕 ・第2種放射線取扱主任者試験問題解答例作成委員会（～2012） ・平成5年度主任者年次大会実行委員会 ・平成13年度主任者年次大会実行委員会 ・平成20年度主任者部会年次大会実行委員会 ・平成27年度放射線安全取扱部会年次大会実行委員会	＊「第2種放射線取扱主任者試験問題と解答例」（第35, 49, 51～54回） Isotope News（1993, 2008, 2010～2012） ＊「第2種放射線取扱主任者試験問題と解答例」（第54～56回）Isotope News（2013～2015） ＊「平成5年度主任者年次大会（第34回主任者研修会）要旨集」（1993） ＊「平成13年度主任者年次大会（第42回主任者研修会）要旨集」（2001） ＊「平成20年度主任者部会年次大会（第49回放射線管理研修会）要旨集」（2008） ＊「平成27年度放射線安全取扱部会年次大会（第56回放射線管理研修会）要旨集」（2015）
近畿支部委員会 〔平成 4年 6月～現在〕 ・第2種放射線取扱主任者試験問題解答例作成委員会（～2012） ・平成6年度主任者年次大会実行委員会 ・平成14年度主任者年次大会実行委員会 ・平成22年度主任者部会年次大会実行委員会	＊「阪神・淡路大震災の被災施設状況調査および救援活動報告」 Isotope News, 1995, 4～8月号 ＊「第2種放射線取扱主任者試験問題と解答例」（第34, 36～53回） Isotope News（1992, 1994～2012） ＊「第2種放射線取扱主任者試験問題と解答例」（第54～56回）Isotope News（2013～2015） ＊「平成6年度主任者年次大会（第35回主任者研修会）要旨集」（1994） ＊「平成14年度主任者年次大会（第43回主任者研修会）要旨集」（2002） ＊「平成22年度主任者部会年次大会（第51回放射線管理研修会）要旨集」（2010）
中国・四国支部委員会 〔平成 4年 6月～現在〕 ・平成9年度主任者年次大会実行委員会 ・平成17年度主任者部会年次大会実行委員会 ・平成24年度放射線安全取扱部会年次大会実行委員会	＊「第1種放射線取扱主任者試験問題と解答例」（第57～59回）Isotope News（2013～2015）（法令） ＊「平成9年度主任者年次大会（第38回主任者研修会）要旨集」（1997） ＊「平成17年度主任者部会年次大会（第46回放射線管理研修会）要旨集」（2005） ＊「平成24年度放射線安全取扱部会年次大会（第53回放射線管理研修会）要旨集」（2012）

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
九州支部委員会 〔平成 4年 6月～現在〕 ・平成10年度主任者年次大会実行委員会 ・平成18年度主任者部会年次大会実行委員会 ・平成25年度放射線安全取扱部会年次大会実行委員会	* 「第 1 種放射線取扱主任者試験問題と解答例」 (第57～59回) Isotope News (2013～2015) (化学) * 「平成10年度主任者年次大会 (第39回主任者研修会) 要旨集」 (1998) * 「平成18年度主任者部会年次大会 (第47回放射線管理研修会) 要旨集」 (2006) * 「平成25年度放射線安全取扱部会年次大会 (第54回放射線管理研修会) 要旨集」 (2013)

事務局組織

学術振興部

学術課 TEL (03)5395-8081、(03)5395-8082 FAX (03)5395-8053

- ・理工学部会、ライフサイエンス部会、医学・薬学部会、放射線安全取扱部会事務局
- ・アイソトープ・放射線研究発表会事務局
- ・放射線取扱主任者定期講習【原子力規制委員会登録】

研修課 TEL (03)5395-8083 FAX (03)5395-8053

- ・第1種放射線取扱主任者講習【原子力規制委員会登録】
- ・第3種放射線取扱主任者講習【原子力規制委員会登録】
- ・第1種作業環境測定士（放射性物質）講習【厚生労働省登録】
- ・アイソトープ基礎技術入門講習
- ・その他講習会の事務窓口

企画部

広報課 TEL (03)5395-8035 FAX (03)5395-5652

- ・Isotope News誌の編集・刊行
- ・RADIOISOTOPES誌の編集・発行
- ・法令集、専門書、ICRP勧告日本語版の編集・発行
- ・教育用DVDの編集
- ・輸送標識の頒布
- ・放射線を業として取り扱ったことのない人を対象とした講習会への講師派遣

滝沢研究所 TEL (019)688-1811 FAX (019)688-1813

- ・サイクロトロンセンターの共同利用（仁科記念サイクロトロンセンター）
（PIXE分析、PETの利用）
- ・RI利用、医学利用展示（武見記念館）

本資料の発行及び問い合わせ先
(公社) 日本アイソトープ協会学術振興部
〒113-8941 東京都文京区本駒込2-28-45
TEL (03) 5395-8081 FAX (03) 5395-8053